国立国語研究所学術情報リポジトリ

基礎篇第十一課　きょうは　あめが　ふっています：して，している，していた

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002790

日本語教育映画解説11

基礎篇第十一課

きょうは あめが ふっています

——して，している，していた——

国立国語研究所

前　書　き

国立国語研究所では，昭和49年度以来，日本語教育部ついで日本語教育センターにおいて，日本語教育教材開発事業の一環として日本語教育映画基礎篇を作成してきた。これは従来，文化庁において進められていた映画教材作成の事業を新たな形で引き継いだものである。

日本語教育映画基礎篇は，各課5分の映画にそれぞれ完結した主題と内容を持たせ，それを教育の必要に応じて使用する補助教材，また，系列的に初級段階の学習事項を順次指導する教材として提供しようとするものである。

映画の作成にあたっては，原案の作成・検討から概要書の執筆まで，また，実際の制作指導においても，日本語教育映画等企画協議会委員の方々に御協力頂いた。ここに厚く御礼申し上げる。

この解説書は，映画教材の作成意図を明らかにし，これを使用して学習し，指導する上での留意点について述べたものである。この解説書がこの映画教材の利用を一層効果あるものにすることを願っている。この第十一課「きょうは　あめが　ふっています」の解説は，日本語教育センター日本語教育教材開発室日向茂男，清田潤の執筆によるものである。

昭和55年3月

国立国語研究所長

林　　大

目　　次

1．はじめに…… 1
2．この映画の目的・内容・構成…… 2
　2.1.　目的・内容…… 2
　2.2.　構成――場面を中心として…… 3
3．この映画の学習内容の解説…… 25
　3.1.　主要学習項目…… 25
　3.2.　その他の学習項目…… 36
　3.3.　語彙の拡充…… 43
　3.4.　練習問題…… 45
4．おもな参考文献…… 50
資料1．使用語彙一覧…… 55
資料2．シナリオ全文…… 77

1. はじめに

この日本語教育映画基礎篇は，初歩日本語学習期における視聴覚補助教材として企画・制作されたもので，この映画「きょうは あめが ふっています」は，その第十一課にあたるものである。

この映画の企画，概要書（シナリオ執筆のための最終原案）の執筆にあたったものは，次の通りである。

昭和52年度日本語教育映画等企画協議会委員（肩書きは当時のもの）

石田　敏子　国際基督教大学専任助手
川瀬　生郎　東京外国語大学附属日本語学校教授
木村　宗男　早稲田大学語学教育研究所教授
窪田　富男　東京外国語大学教授
斎藤　修一　慶応義塾大学国際センター助教授

日本語教育センター関係者（肩書きは当時のもの）

野元　菊雄　日本語教育センター長
武田　　祈　　〃　　日本語教育教材開発室長
日向　茂男　　〃　　日本語教育教材開発室研究員

この映画「きょうは あめが ふっています」は，日向茂男研究員の原案に協議委員会で検討を加え，概要書にまとめあげてから制作したものである。制作は，日本シネセル株式会社が担当した。概要書のシナリオ化，つまり脚本の執筆には同社の前田直明氏があたり，また同氏はこの映画の演出も担当した。ただし演出の際の言語上の問題については，協議会委員及び日本語教育センター関係者の意見が加えられている。

本解説書の執筆には日本語教育センター日本語教育教材開発室の日向茂男，清田潤があたったが，企画・制作段階での意図が十分生きるよう努めた。

現在，この映画は，より多くの人の利用の便をはかって下記の九か所において貸し出しを行っている。

- ○　北海道教育庁指導部社会教育課視聴覚教育係
- ○　宮城県教育庁社会教育課
- ○　都立日比谷図書館視聴覚係
- ○　愛知県教育センター企画管理係
- ○　京都府教育庁社会教育課
- ○　大阪府教育庁社会教育課
- ○　兵庫県教育庁社会教育・文化財課
- ○　広島県教育庁社会教育課
- ○　福岡県視聴覚ライブラリー

なお，この映画は，そのビデオ版とともに上記制作会社が販売している。

2.　この映画の目的・内容・構成

2.1.　目的・内容

この映画「きょうは あめが ふっています」は，動司に接続助詞「て」が伴う表現法の導入を主要目的としている。まず動詞に「て」をつけた形を中止法として学び，また同時に，それに補助動詞「いる」をつけた「＿＿ている」という形をも学ぶ。これは今後，動詞に「て」を介して作る，何通りかの複合動詞を導入していく上での第一歩となるものである。

こと第十一課では，前述のように

(1)　動詞＋「て」(中止法)

(2)　動詞＋「ている」

の，意味・用法を学習する。以下，動詞に「て」を介してつくる複合動詞として，第十二課で「―てある」「―ておく」「―てしまう」を導入する。さら

に第十三課では「—てください」など，第十四課では「—てくる」「—ていく」とつづく。

この課では他に，以下のことも学習項目とした。

(3) 数・量の言い方の理解

第五課で，時のあらわし方と「～分かかる」という表現を学習した。また教詞と助数詞は第七課で扱った。これらの理解を前提とした上で，より一般的な

駅まで5分，歩きます。

友だちが三人，います。

のような，数・量をあらわす連用修飾の用法を学ぶ。

(4) 「自分」という言い方

(5) 「二人とも」「コーヒーでも」に見られる，「とも」「でも」の表現

(6) 「—て」の形式に関連した表現として，「まず」「それから」などの前後関係の言い方

などを理解する。さらに視聴覚教材活用上の課題として

(7) 文末表現，その他の豊かさにともなって生まれてくる会話らしさを，学習に生かしていく

終助詞，省略文，応答文，感動詞，おいさつことば，「～のです」などの形を場面や人間関係に生かすよう，映画企画の時点で，考えに入れてある。それらにより場面や感情に即した豊かな表現能力を身につけることを目標とする。

また，次のような応用も考えられる。

(8) 聞きとりの訓練

一般的ではあるが，やや複雑で聞きとりにくい名前を登場人物に与えてある。これを地名などの固有名詞とともに，聞きとり能力の訓練に役だてる。

2.2. 構成——場面を中心として

2.2.1. この映画での場面や言語表現については，以下の通り扱うことにす

る。

1. 映画の構成にしたがって，場面を分ける時にはⅠ，Ⅱ，Ⅲ……のようにし，それをさらに小場面に分ける時には，Ⅰ－1，Ⅰ－2，Ⅰ－3……のようにする。
2. 言語表現については，文単位で①②……のように通し番号をつける。文の変種を引用する時には，′ の印をつけ，①②′……のようにする。変形引用がふたつ以上ある時には，″ ″′ ……の順で ′ を重ねていく。
3. なお，この映画中にあらわれていない文や語句を例示する時は，〔 〕付きの番号をつけ，その変種の引用には(2)の場合同様 ′ 印をつける。文や語句の束で例示する時も出現順に通し番号にする。

以下の言語表現の扱いについては，文単位の認定に多少問題のあるところもあるが，ここでは積極的にその問題に触れることはしない。なお，①②……の文番号は，使用語彙一覧で引用される文やシナリオ全文でのものと共通である。

2.2.2. この映画は，大きく三つの場面に分かれている。そのうち，せりふがあるのは第1，第Ⅲの場面で，場面Ⅱはこの課の学習項目が無言のまま映像表現される。それをはさんで場面Ⅰはナレーション，場面Ⅲは会話体でせりふが展開する。映画全体としては，ある雨の日の下宿での生活が大枠として描かれている。

Ⅰ　雨の日の下宿

主人公が雨の降る窓外の景色と対座して，手紙をかいている。ナレーションの話法は，「私(主人公・伊藤)」を叙述の主体としている。語られる内容は現在の情景描写から始まって，彼の日常生活の紹介におよんでいる。このナレーションはいま書いている手紙の文をそのまま音声化したものと考えられる。ただし，なかに「⑤私は，今，自分の部屋で手紙を書いています。」という表現がある。後述するように，この表現が，このナレーションが手紙文そのものであるという印象をうすめている。いずれにしろ，ここでは主人公

が映画をみる人に，自身や周辺についての説明を語りかけているのであり，その手順は，

㋑眼前の描写

㋺自己の生活

㋩最近の，ある特定の経験

と，なめらかにつながっている。眼前の描写の手始めは，この映画全体の雰囲気を決定づける。いわばキイ・ワードでもある。　，

① 今日は，雨が降っています。

② 風も，少し，吹いています。

③ 木の葉が雨にぬれて，ゆれています。

④ 庭には，菊の花が咲いています。

①の「今日」は，時をあらわす名詞である。時をあらわす名詞は，名詞としての用法の他に副詞的に用いられることもある。この場合「は」を伴って特定化し，主題にすることもできる。

〔1〕きのう，雨が降っていました。

〔1〕′きのうは，雨が降っていました。

〔2〕あした，雨が降るでしょう。

〔2〕′あしたは，雨が降るでしょう。

なお，時の名詞については，第十課参照のこと。

①の「降っています」は「降る」という作用が現在，進行している最中であることをいう形である。過去のある時に降るという作用が始まり，現在を通りこして未来のある時まで続くことを示している。「ている」の用法のうち，このような意味をあらわすものを，ここでは，「進行の用法」と呼んでおく。

②は，①の内容を受けついで，「風も…」と，たたみかけている。「も」は，異なるものを二つ提示したとき，後者が前者と同列に並ぶことを強調するために使う。一般には，

〔3〕本も鉛筆もある。

〔4〕太郎が来ている。花子も来ている。

という，前後の呼応したものが理解しやすい。しかし実際の用例としては，ここで，あらわれたように，

①′ 雨が降っています。

②′ 風も吹いています。

という，雨―風，降る―吹くといった，主題，陳述がそれぞれ異なりつつ呼応した形に「も」が，しばしば用いられる。これについては，「雨」には「降る」が，「風」には「吹く」が，それぞれ対応語として使われるという規範があらかじめあるので，同列化強調の「も」を使ってまとめると，こういう形になる。また一方で，

雨が降っていること

が既にあり，

風が吹いていること

もまた同時にある，という意識が，②′ のように主題が代表して「も」を受けもつ，という形を出現させたのだと見てもよい。

②の「少し」は，程度をあらわす副詞。ここでは，動作・作用のいちじるしさについて，その程度が低いことを言っている。ただし，形容詞「少ない」が，分量・程度について否定的に使われるのに対し，「少し」は，「少しならある」という気持ちで使われることが多い。

「少し」の対照どなる語を使って②を言いかえると，次のようになる。

②″ 風も，たいへん，吹いています。

「少し」は数量の程度について使われることも多い。その例と，それを対照となる語で言いかえたものをあげると，下のようになる。

〔5〕カエデの木が，少し，あります。

〔5〕′カエデの木が，たくさん，あります。

なお，②の「吹いています」は，①におけると同じように，動作の進行をあらわしている。

③の「木の葉」は，コノハと発音する。「木の実」もコノミである。しかしキノハ，キノミと言っても間違いではない。「木の芽」はコノメともいうが，

ふつうはキノメである。「木の根」「木肌」はそれぞれキノネ，キハダ。「木の下闇」「木の間越し」「木もれ陽」はコノシタヤミ，コノマゴシ，コモレビと読む。

③に含まれる二つの動詞のうち，はじめのものは「ぬれて」と中止され，すぐ続けて「ゆれています。」と結ばれる。「ぬれて」の形は，これが次の「ゆれています」の「います」と結びついて，「____ている」表現を形成しているとも考えられる。図示すると

③′ 木の葉が雨にぬれて
ゆれて　います

のようになる。

こう解釈するならば，この文は，次のふたつのことを描写していることになる。

(1) 木の葉が，雨にぬれているという状態にあること。つまり，ぬれるという出来事が，過去のある時におこってから，その結果が今まで状態として持続していること。

(2) その木の葉が現在，ゆれるという動作を継続して進行中である，ということ。

また一方で，「ぬれて」は単なる中止であり，「ている」と結びついていない，ともとれる。こうした場合も，文の持つ意味としては，上と大きな違いはない。

「ぬれて」の中止が，時間的順序あるいは原因理由の表現をしている，という解釈は，とることができない。「ぬれて」が時間的に先だっておこり，「ゆれている」のが後に続いた現象であるとは考えられないし，ぬれたのが原因で，ゆれるという事態がおこったとも考えられないからである。これがもし下のような文であれば，いま述べたうちの後者，原因理由の解釈が成り立つ。「て」で中止された前件と後件とのあいだに，因果関係が成り立つからである。

③″ 花が雨にぬれて，しおれています。

⑤　私は，今，自分の部屋で手紙を書いています。

⑥　私は，東京の板橋に下宿しています。

⑤の「自分の」は，この場合，話し手に属しているところの，，という意味だが，「私の」とは用法が違う。

〔6〕自分の部屋に帰りなさい。

〔7〕彼は自分の考えも捨てたものではないと思った。

これらに見られるように「自分」は，その文の中で主題となっている人物をさす。

⑤⑥では，④に続いて連体修飾の助詞「の」があらわれる。⑤では,「の」の後につく名詞（部屋）が,「の」に先立つもの（自分）に所属し，またはその管轄下にあることを示す。⑥では,「板橋」が属しているところの，より大きな分類の地名「東京」によって,「板橋」に説明を加えるという修飾の形になっている。

⑤で時を指定している「今」は，時をあらわす名詞の副詞的用法であり，「書いています」という結びを導いている。この「今」が,「書く」という動作が現在進行中であることを明瞭にしている。「今」という時の副詞を，他のものに言いかえてみると，たとえば次のようになる。

⑤′　私は，いつも，自分の部屋で手紙を書いています。

⑤″　私は，5時に，自分の部屋で手紙を書いています。

⑤′　では，「ています」という表現が，⑤と違って習慣的行為をあらわすことになる。四六時中手紙を書き続けているのではないが，現在の生活時間のかなりの部分を，手紙を書くために費している，という意味。あるいは，手紙を書くときは，いつでも自分の部屋でする，という意味になる。この二者の区別は，「いつも」が「部屋で」にかかるか,「書いています」にかかるかの違いによるが，音声表現された時には，強調箇所の違いとしてあらわれる。

⑤″を習慣的行為の意味で解釈すれば，毎日，5時に手紙を書く習慣を持っている，ということになる。また仮にいま5時より前であって，話し手の未来の行動に，聞き手が何らかのかかわりがある（たとえば話し手を訪問す

る約束をした）とすれば，⑤″は，未来の特定の時（本日の5時）の，話し手の状態をあらわすことになる。5時には手紙を書くという動作が進行している状態にある，と言っているわけである。

他動詞「書く」が「を」を介してとる目的語は，手紙のほかに小説などの文学作品，本，書類（報告書，履歴書などの「___書」という形をしたもの），絵，図，（音楽の）曲などがある。絵や図については「画く，描く」を用いることが多い。またこれらは，エガクと読むことが多い。ちなみに講義録や心おぼえとしての「ノート」「メモ」は，書くともいうが，「取る」のほうが一般である。

なお，⑤の「手紙」は「こそあど」の連体詞がついていない形で，文脈のなかで初出している。これは，その手紙が，話し手と聞き手のあいだに了解ずみの既知のものであるか，あるいは特定のものを示さない単なる手紙であることを思わせる。このナレーションが手紙文そのものを読みあげているのだとすれば，

⑤‴ 私は，今，自分の部屋で，この手紙を書いています。

とするのが，より適当となろう。

⑥のサ変動詞「下宿している」は，結果の状態をあらわす。

Ⅰ－2　私の一日の生活

前節では目に見える風景の描写から，しだいに視点が移って主人公自身に目が向き，「板橋」「下宿」という，生活の拠点にかんする事実の紹介に落ちついた。ここでは，それを受けて，主人公の一日の生活ぶりが示される。画面は，一日の時間の流れの中から要所を取りだして箇条書きふうに提示するのにふさわしく，スティル（静止画）で構成される。

⑦　朝は，いつも，7時に起きて，かんたんな朝食をとります。

⑧　8時に，下宿を出て，駅まで5分，歩いて，板橋駅で，電車に乗ります。

⑨　そして，池袋駅で，電車を降ります。

いずれも文末は，ます形である。この節は最後までこの形で通し，習慣的行為の表現にあてている。

⑦「朝は」の時の指定のしかたは，①と同じ形。「いつも」で習慣的行為の程度を強めている。次の「起きて」は，「ている」形ではなく，単なる中止・接続。後にくる動詞に対して時間的順序をつけるもの。

⑦′ 彼は，もう，7時に起きて，朝食をとっています。

という形の場合は，③にみたように幾通りかの解釈がつき，「起き〈ている〉」のように，つながっているとも考えられる。

「かんたん(簡単）な」の反義語は「複雑な」である場合が多いが，この文では，「手のこんだ」「たっぷりした」あるいは「豪華な」がこれにあたる。

朝食を「とる」は，「食べる」と同じだが，やや上品な言い方。文⑦の意味では，「とる」は，食事（朝食，昼朝，夕食）に使われる。

⑧では，前半の「駅」と，後半の「板橋駅」が，同じものを言いあらわしている。文脈の中で初出の，何駅かわからないままの「駅」を提示しておいて，あとで「板橋駅」と指定するのは，やや変則と言える。単に「駅」と言うのは，あらかじめ話し手と聞き手のあいだに何駅であるかの了解があるか，そうでなければ，はじめから何駅であるか指定する意志のない場合であろう。後者であるならば，途中で急に気がかわらないかぎり，最後まで指定をしないですませるのが普通である。

⑧の「5分」は，名詞をそのまま，副詞的に使っている。数量，時をあわす名詞は，単独で，あるいは助詞をともなって，副詞的に使える。日本語教育映画では，第五課で

寮から学校まで何分かかりましたか。

50分かかりました。

という形が出ている。この第十一課では，時以外の数量をあらわす語の副詞化も，後の⑫の文で扱う。

⑨「電車を降ります」は，「電車に乗ります」に対して，「を」—「に」，「降りる」—「乗る」が，それぞれ対応した形になっている。助詞のかかり受け

の問題であるが，これについては第九課の解説書にくわしい。

⑩　学校は，9時に始まって，4時ごろ，終わります。

⑪　夜は，7時ごろ食事をして，少し，テレビを見て，それから，11時ごろまで勉強して，寝ます。

⑩「学校は」の「は」は，主題の提示化の役目をしている。「始まる」「終わる」の各自動詞は，対照的な意味をもつ。この文での「て」の機能は，⑦⑧におけるのと基本的に同じである。ただし，このように対照的な語をならべた構文に,「て」の中止法が多く使われる傾向はある。例を示す。

〔8〕私はきのう，大郎に千円かりて，きょう返しました。

この基礎篇シリーズでは「学校」ということばは,第一課にすでに出ている。

1－㉗　あの建物は学校ですか，病院ですか。

文中にはっきり示されているように,この文では物質的な実体としての「学校の建物」を「学校」と呼んでいる。補足的な「建物」という概念規定を文中から取りのぞいてしまっても，第一課の映画解説書で変形応用されているように

1－㉗′　あれは何ですか，学校ですか，病院ですか。

が成り立つ。しかし,「学校」という名まえがあらわす概念は，本来もっと抽象的なものであり，それが目に見えるものの名へと転用されたのだと見られる。「学校」ということばの，日常つかわれている意味を書きならべてみると，次のようになる。

ⓐ　学校の建物

ⓑ　建物もその一構成要素として，敷地や付属機関も含めた建造物の総体

Ⓒ　構成員の人格を含めた，組織体としての学校

ⓓ　学校の名においておこなわれる営為，およびその機能

同じ「今日は学校へ行くよ」であっても，学生がそれを言えばⓓの意味であり，そこでおこなわれる演芸会のために父母が行くのであればⓑの意味となる。「来年，ぼくは学校へ行く」となればⒸである。

⑩では学校はⓓの意味に使われている。ⓒととれば，彼の通う学校は7時に初めて創立されるように聞こえる。ⓐⓑであれば，そもそもそのようなものが「始まる」という表現をすることはできない。

⑪「食事をする」は「食事する」や「食事をとる」と意味の上で大きな差はない。しかし前二者に対して後者は，書きことば的である。「食事をとる」には，多少大げさに言えば，生存のため，やむをえず，といった響きがあり，⑦のように簡単な食事について言うのに，ふさわしい。

同窓生たちと久しぶりに食事をした。

と言うと自然だが，これを「食事をとった」に言いかえると，にぎやかな会食という感じが，うすくなる。

三箇所ある「て」の中止法は，軽く時間的順序をあらわす用法の典型である。「それから」がそれを一層，強調している。「それから」は，（この文にはないが）「まず」としばしば呼応し，それがついた場合は，順序に対する着目度が強くなる。

Ⅰ－3　浅草へ行ったこと

静止画の映像はカラーからモノクロームに変わる。習慣的行然から，ある特定のできごとの回想へと移りかわることを，感覚にそのまま訴えるための一種の合図といえる。

⑫　下宿には，友達が三人，います。

⑬　先週の日曜日，この三人の友達と浅草へ行きました。

⑭　まず，お寺へ行って，それから，町を歩いて，買物をしました。

⑮　帰りに，みんなで，焼鳥を食べて，ビールを飲みました。

⑫の「三人」は，⑧で扱ったように，数量・時をあらわす名詞の，副詞的用法の例である。副詞および副詞的用法をされている語句は，省略しても構文としては成り立つ。

⑫′　下宿には，友達がいます。

これを基本文型として，副詞的用法の「三人」を後から挿入した形が⑫で

ある。挿入する位置については，次のように言える。

㋑　その副詞が意味を限定，詳述する名詞が文中にある時は，その名詞の直後に入れる。

㋺　その副詞がかかる動詞の直前に入れる。

この二通りのうち，どちらかを満たすようにするのが一般的である。

⑫′　下宿には，三人，友達がいます。

のような形は，まちがいではないが，初期の学習段階では出てこないのが普通である。

⑬の「この」は,「その」で代用しても，意味の大きな変化はない。ここでは,「この」を使うことで，三人を以後も眼前におき，話題として取り扱おうという態度が示されている。これが「その」になると，対象に距離をおいた客観的な表現となり,「その」であらわされたものに対する着目度が弱くなる。

⑭には，先述の「まず」と「それから」の呼応が見られる。「買物をする」は，さきの「食事」と同様,「買物する」と言いかえられる。

この⑭と⑮の「て」の用法は，他とは違っている。町を歩いてから，その後で買物をするのではなく（そう解釈できなくもないが)，町を歩いて，同時に買物をするのである。買物とは，品物を手に取って，お金をはらう瞬間のことを言うのではなく，その意志をもって現地にむかうあたりから始まる一連の行動についてそう呼ぶのが普通だからである。「焼鳥を食べて，ビールを飲みました」も同様である。おのおのを一定時間つづく一連の行動と考えれば，焼き鳥を食べるのとビールを飲むのとは，同時になされている。すなわちここでは「て」の中止法は，同時進行の意味をあらわしている。

⑮にあらわれている「帰りに」の「に」については，第十課の解説を参照されたい。

Ⅰ－4　雨の下宿の４人

言語表現はないが，この映画の主題を端的にあらわしている場面である。

映画的なつながりで言えば，場画をふたたびこの映画の主要な場にもどし，

雨の下宿という場のもっている情景を確認する役目をもつ。以後，下宿を舞台に，現実の光景，現実の時間を追いながら，会話がおこなわれることになる。

学習の面からいうと，ここでは4人の人物の，それぞれ進行中の動作を見せて，進行の意味の「ている」表現を映像化している。この眼前の風景を描写する音声表現は，この場には盛りこまれていない。教室では，これを見ながら学生に発話されて，ドリルを構成することに役だててほしい。

この映像を言語化するのは，後の部分の役目となる。そこではこの情景が「—ていました」と過去形で語られて，映像の意味を確認し，言語との対応をつける。何の前提もなく言語だけで「—ていました」を提示しても，理解はいきとどかないところを，あらかじめ映像で見せておいて，後の言語表現で了解・定着をはかるという，視聴覚教材の機能を生かそうと企図している。

なお，ここに提示された映像が示している情況を，言語表現として定着させてみると，次のようになる。

〔9〕伊藤さんは，手紙を書いています。

〔10〕大山さんは，テレビを見ています。

〔11〕鳥井さんは，ギターをひいています。

〔12〕松沢さんは，本を読んでいます。

これらのうち〔10〕を除いた三つは，形を変えて次の場面で言語で示される。

場面は，本を読んでいた松沢が，あくびをして部屋を出ていくところで終わる。その行為は同時に，次の場面への橋渡しの役をも演じている。

II　下宿で　——友人と話しながら

場面はこの映画の冒頭と同じ，伊藤の部屋に戻っている。浅草へ行った時に写した写真の話題を主に，話しことばが展開していく。ここでは，「ている」表現の他にも，種々の新しい表現が取り扱われている。日本語教育映画のこれ以前の課を見わたしてから，これを見ると，場面に即した会話らしさ，感情表現を加えて，ことばとしての機能が広がった段階を，形づくっている

といえよう．

もちろん，この映画の基礎篇を通じての一貫した姿勢である，「です・ます」の文体を使うという原則は，ここでも，くずされていない。主人公たちが学生であり，かつ同じ屋根の下に住まう親しい仲間であることを考えると，本来ならば当然，彼ら同士が話しあう文体のなかに丁寧体が出現する機会は，ほとんどないと言ってもよい。そこをあえて，日本人にとって不自然に見える文体に統一していることと，課を追って表現が豊かになってきたために会話が自然さを増してきたこととは，矛盾するものではない。文体の設定に丁寧体という枠をはめているのは，学習者が日本語で表現する場合に規範となる文法・語彙を与え，かつそれをどんな場面で使っても過不足なく通用する表現とするためである。

II－1　松沢が来る

前の場面では本を読んでいた松沢が，飽きた様子であくびをし，気分を変えようとしてか，部屋を出た。こうした場合に人がよくするように，彼は別段用事もなく友人の部屋をノックする。中から伊藤が答える。

伊藤「⑯どうぞ。」

松沢「⑰大山さんや，鳥井さんは，来ていますか。」

伊藤「⑱いいえ，来ていませんよ。

　　⑲二人とも，自分の部屋でしょう。」

松沢「⑳あっ，そうですか。

　　㉑あーあ。」

ここには，応答文が二つ見られる。⑯の「どうぞ。」と⑳の「あっ，そうですか。」である。⑯は，人の申し出に許可を与える表現。ここでは申し出とは，ドアーのノックである。もとは，「どうぞ」は何かものを頼むときに添える表現であり，現在でもこれは使われる。

〔13〕どうぞ，私にそれを下さい。

の類である。これが後に，相手に対する敬意をこめて，許可を与える表現に

も転用されるようになった。このあたりの事情は欧語の please やsilvous-plait にも共通する。

なお，ここではドアーのノックに直接，許可を与える表現「どうぞ」で応じているが，ドアーのノックを認知したと応じる時には,「はい」と返事するのが普通である。

⑳の「そうですか」は，相手の発言内容を了解したことを示す表現。あいづちの一種であって，あまり積極的に意味をこめて使われることは少ない。そうした場合，尻下がりに発音される。これが尻上がりのイントネーションで「そうですか↗」と使われると，相手の発言内容の正当さに対して，承認を保留して疑問の意をあらわす。さらに最終母音を引き伸ばして,「そうですかあ↗」とすると，強い不服，疑い，反対意見の意志表示になる。

⑰「大山さんや鳥井さん」の「や」は，名詞を並列するときに使う助詞である。これを「と」に言いかえると，次の文が得られる。

⑰′ 大山さんと，鳥井さんは，来ていますか。

⑰′が大山さんと鳥井さんの二人だけを限定して話題にしているのに対して，⑰は他の人物についても暗黙のうちに言いおよんでいるところに特色がある。「や」は並べられた名詞以外にも，存在するものがあり得ることを前提とした上で，それらをまとめて話題にする表現である。

⑰⑱の「来ています」「来ていません」は，動作の進行ではなく，結果の状態をあらわす。「来る」という動作がおよぼした結果（ここでは来た結果，その人物がこの場にいること）が，現在まで続いている状態をあらわす。

「来ていますか。」は疑問の表現なので，尻上がりに発音される。また⑱「来ていませんよ。」も尻上がりに発音されている。こちらのほうは単独の文としても，文脈のなかで見ても，尻下がりのイントネーションも可能である。ここでは，軽い疑問の意味がこめられて尻上がりが出現したと考えられる。おそらく普通は話者にもはっきり意識されないほどのものであるが，ここでは以下のような疑問の内容が，隠されているものと思われる。

「⑱いいえ，来ていませんよ。」

(㋑どこにいるのか，私は知らない。)

(㋺彼らへの用事は何か。)

(㋩用事いかんによっては，居場所をつきとめるために，何らかの行動をおこそうか。)

これらのどれかが，尻上がりをもたらしたのであろう。

「いいえ」が尻上がりになるか，あるいは「～ですよ」の尻上がりの程度が強まると，相手の言動の不当をなじる意味が出る。この文例で言えば，

「⑱いいえ，来ていませんよ。」

(㋥来ているはずが，ないではないか。)

(㋭おまえが彼らをさがすという行動は，（ある事情により）不当である。)

といった意味になる。「よ」は念押しの意味に加えて，文全体を主張化する機能を持つからである。

⑲を変形して下のようにしても，意味の大すじは変わらない。

⑲′ 二人は，自分の部屋でしょう。

違うのは，⑲においては，おのおのが別の行動をとっている可能性があることを前提とした上で，二人が同じことをしていることを，あらためて強調している点である。「とも」は格助詞「と」に係助詞（提題助詞）「も」がついた形で，「○○も××も両方」という意味をあらわす。

⑲にはまた，「自分の部屋でしょう。」という形が見られる。ここでの「です」は，代動詞と呼ばれ，動詞の機能まで兼ね備えていると考えられている。この形の文法的位置づけには従前から議論がある。ここでは深入りせず，解説書第十課および文献にゆずることにする。

なお，「です」が兼ねていた動詞を復活させた文を示す。

⑲″ 二人とも，自分の部屋にいるでしょう。

⑳「あっ」は感動詞。ある発見をした際にしばしば出るが，そうした意味が弱い場合もあり，この文がそれにあたる。

㉑「あーあ。」で，松沢の所在ない気分が知れ，同時に，先ほどの質問⑲が，

とりたてて意味のあるものでなかったことが伊藤に了解される。そこで，伊藤は話題を転ずることにする。

伊藤「㉒何をしていたんですか。」

松沢「㉓小説を読んでいました。

㉔おもしろいんですが，ちょっと，疲れました。

㉕伊藤さんは，手紙を書いていたんですね。」

伊藤「㉖ええ，友達に手紙を書いていました。」

「んです」という形が三回，出てくる。これは，書きことばでは「のです」とあらわれることが多いものである。形容詞にこれがついたものは第十課で扱ったが，ここでは動詞文での文末についたものも二つ出ている。

「のです」の意味・用法は，その表現をとるときの心理過程を考えると，複雑な面があるが，ごく大ざっぱにまとめると，以下のようになる。

(1) 説明・説得・主張のための表現として使われる。

(2) 動詞＋「です」の形は不可であり，形容詞＋「です」の形は認めにくいという規範意識があり，その代用として「のです」の表現をとることがある。したがって，動詞＋「のです」の形と，形容詞＋「のです」の形は，(1)のような意味をはっきりあらわさないことがある。

「のです」について詳しいことは第十課解説書を参照されたい。

㉒のように,「何をしていたか」という質問は，日本語では，あいさつことばとして時々つかわれる。

〔14〕「どちらへ（いらっしゃるのですか)。」という質問についても言えることだが，この松沢の回答のように，まともに正直に答える場合もあり，さりげなく，ぼかして答えることもある。㉒の質問に対しては，

「ええ，まあ。」

「いやあ，疲れましたね。ところで……。」

などとすることもできるし，〔14〕に対しては

〔15〕「ちょっとそこまで。」

と答えるのが，ひとつの常套的なやり方である。

㉕「伊藤さんは」のように，面とむかった相手に対して，「あなたは（きみは)」と言うかわりに，名前で呼ぶ形は，第八課ですでにあらわれている。この形は一般に，呼びかけとしてではなく，主語として二人称代名詞のかわりに使っている。日本語では，二人称代名詞を使うことは忌避されがちだが，このように相手の名前を使ってそれにあてるのは，抵抗なくおこなわれることが多い。ただし「～さん」という敬称は，ある程度以上の目上には使いにくい。「～さま」となると特に相手との間に距離をおいた表現，または商業用語である。目上に対しては肩書き・称号の「部長」「先生」などで呼ぶか，そうした表現が見つからない時には，二人称を主題化することは，できにくいことになる。

㉖を現在の形に言いかえると

㉖′ ええ，友達に手紙を書いています。

になる。㉖′は現在進行中の動作を述べる用法であるが，それを過去のある時点において進行中であった動作について述べる形にかえたものが㉖ということになる。「～ています」を過去形にする方法が，ここで提示された。

松沢は，この映画全体を通じての基本的状況である「雨が降っている」という事実を，軽い，いまいましさを込めて確認する。

松沢「㉗まだ，雨が降っていますね。」

伊藤「㉘ええ。」

松沢「㉙ちょっと，タバコ屋へ行ってきます。」

㉗「まだ」は，予想する段階に至らないことを示す副詞。対照的な語として「もう」がある。

㉗を，否定文を使って言いかえると，次の文が得られる。

㉗′ まだ，雨が（降り）やみませんね。

あいづちとして使われている ㉘「ええ」について述べる。この場面で，「雨が降っている」ということは，窓の外を見ればわかる，二人の間に共通の了解事項である。したがって㉘「ええ」は，㉗「まだ，雨が降っています

すね。」という述懐に対する，消極的な承認に過ぎない。それゆえ，ここでは「はい。」は使いにくく，「ええ」の方が適当である。応答語「はい」「ええ」その他については，第八課解説を参照されたい。

㉙の「ちょっと」は，「少し」に以て，数量・度合いのいちじるしくないことを述べる表現。特に㉙では，わずかな時間や労力でできる行為に，気軽にむかうのだという意志表示に使っている。くわしくは第3章であつかう。

なお，㉙の「行ってきます」において，初めて「―てくる」の形が導入された。その中でもこれは，ある動作をした後で，こちらの方へ近づいてくることをあらわす。「動作後接近」の用法と呼んでおこう。この文で言えは，タバコ屋へ行ってから，その動作が終わった後，こちら，つまりいま松沢がいる場所（建物内）へ近づいてくる，という意味である。

II－2　大山が来る

場面Ⅰ，IIですでに姿を見せていた他の二人の学生，大山と鳥井が，これから後半にわたって登場している。人物の関係についても話題についても，この映画を見る学習者には一応紹介ずみなので，日常的な仲間うちの会話も，大きな負担を感じないで理解していけるであろう。

大山「㉚伊藤さん，浅草の写真ができましたよ。」

伊藤「㉛ああ，浅草の写真ですか。」

写真を見て，伊藤は笑い声になる。

伊藤「㉜この写真は，おもしろいですね。」

大山「㉝そうですね。」

㉚「できる」は，物事が生成する，無から有が生ずる意味の自動詞。「____ができる」という形をとり，それが提題化されると「____はできる」という形になる。たとえば：

〔16〕浅草の写真は，できましたか。

〈名詞＋できる〉は，第八課で導入した。〈動詞＋ことが＋できる〉の形の可能の用法は，第十八課で扱うことになる。

「写真ができましたよ」の「よ」は，自分の判断を主張する気分が強い。念押しや，呼びかけにも使われる。ここでは相手が反応し，それに続く行動をとることを期待・要請しながら，ある新事実を呼びかけている。 似た用例に，たとえば自動車をまさに動かそうとしながら，同乗するべき人たちに

〔17〕さあ，出かけるよ。(早く乗ってくれ)

というのが考えられる。㉚にも，言外に，「さあ，見てください」という要請がかくされているとも見られる。

㉛「ああ」は，⑳「あっ」に以るが，語調からもわかるように，「あっ」に意外の意味が含まれるのに対して，「ああ」は予期していたことが起こったときの感想の響きがある。

また「浅草の写真ですか。」は，㉚㉛のやりとりの中で，話者たちが最も関心を持つ物件のみを，思わず反復して言ったものであろう。こうした形は，事務的なやりとりなどで，特に聞きまちがいをしては困る場合などに，確認の手段としてよく使われる。

〔18〕シャープペンシルを一本ください。

〔19〕シャープペンシルですか。

写真の印画が入っているらしい袋を，大山が持ってきた。伊藤がそれを見て，ある予想を立てた，とも考えられる。㉚で「浅草の写真ができた」と言われて，予想の的中を知って発したことばが「ああ」であり，「浅草の写真ですか」というわけである。これらの考えをもとに，㉛の意味をできるだけ変えずに書きかえてみると，以下のようになる。

㉛′ ああ，(もうできるころだと思っていたが) 浅草の写真ができたのですか。

㉛″ ああ，(浅草に行ったとき写真をとったのはおぼえているが) あのときの写真ができたのですか。

㉛‴ ああ，その写真は，(たぶんそうだとは思っていたが) 浅草の写真ですか。

伊藤「㉞鳥井さんは，今，何をしていますか。」
大山「㉟さあ……。
㊱さっきまでギターをひいていましたよ。」
伊藤「㊲コーヒーでも，いれましょうか。」
大山「㊳それは，いいですね。」

㉞は，ある人物について，現在，何の動作を進行中であるかを質問するときの，標準的な言い方。㉕の「伊藤さんは，……」とは，ちがう。㉟の「さあ」は，質問に対する答えが見つからないときに使う。考える時間をかせぐための場つなぎのことばでもある。「さあ」には他に，

〔20〕さあ，行きましょう。

のように，自分や相手を行動にうながす，かけ声としてのことばもある。「さあ」については第十課参照のこと。

「ギターをひいていましたよ。」の「ひく」は「弾く」とも字をあて，弦楽器を演奏することをあらわす。ピアノのような打弦楽器，ギター，チェンバロのような撥弦楽器，バイオリンのような擦弦楽器，いずれにも使う。擦弦楽器については「引く」と書くこともあるが，一般的ではない。それらに対して，管楽器は「吹く」，打楽器は「打つ」または「たたく」という。「奏する」という形であれば，どの楽器にも使える。

㊲「コーヒーでも」の「でも」は，きびしく制限せず，大体のところをあげるのに使う副助詞または係助詞。選択の範囲がいくつかあることをにおわせ，話し手は特にそのうちのひとつを希望するのではなく，聞き手に選択をさせる気持ちで使う。「でも」については，さらに第3章で述べることにする。

㊲「いれる」は，「入れる」と書くが，当用漢字外で「淹れる」とも書く。湯をさして飲み物を作る意で，お茶の系統の飲み物，コーヒーなど一般に使う。葉や粉から，せんじて出すもの以外には使いにくくもあるが，その区別は厳密ではない。

㊳「それは，いいですね。」は相手の提案に喜んで同意するときに使われる表現。

伊藤「㊴鳥井さんも，呼びましろう。」

大山「㊵それはいい。

㊶松沢さんは。」

伊藤「㊷松沢さんは，今，タバコを買いに行っています。

㊸すぐ帰ってきますよ。」

大山「㊹ああ，そうですか。

㊺じゃあ，鳥井さんを呼んできます。」

伊藤「㊻お願いします。」

大山「「㊼ええ。」

㊴「鳥井さんも」の「も」は②で前出した。ここでも少し，ねじれた表現になっていて，

㊴′ ○○さんを呼びます。

㊴ 鳥井さんも呼びましょう。

という呼応があるわけではない。強いて解釈するなら，

㊴′ 私たちの他に，鳥井さんも，この場に来てほしい。呼びましよう。

の意味で使われていると言えようか。

「呼ぶ」は声をかけるという意味，招くという意味，および声をかけて招くという意味がある。その「招く」にも二通りあり，物理的に主体(話者)の方向に来させる意と，ある場に招待する意とがある。ここでは招待の意味で使われている。

㊵「それは，いい。」は㊳から終助詞と丁寧の助動詞を省略した言い方。

㊶は「どこにいますか。」あるいは「呼びましょうか。」を省略していると考えられる。

㊷の「買いに行く」は，「行く」という動作の目的が「買う」であることをあらわしている。この「に」の「行っています」は，行くという動作が終わって，結果が残っている状態をあらわす。

㊸の副詞「すぐ」は時間的近接，空間的近接のどちらにも使う。

㊸「帰ってくる」は,「帰る」および「くる」という，ふたつの動作の意味

が並列されたもの。これは

〔21〕雨が降ってきました。

における「—てくる」とは意味・用法がちがう。〔21〕の「—てくる」については，第14課で扱う。

㊺「じゃあ」は,「それでは」または「では」が縮小・転訛されたもので，外部の条件に応じて判断をするときに発する接続詞。「呼んできます」は前出，「動作後接近」の用法。

II－3　鳥井，松沢がくる

この課で話題になっていた人物が，ひとつの場所に集まる。三人以上の人物で構成する場には，個人対個人の会話とは違った言語表現が出現することになる。

呼ばれてきた鳥井が，部屋に入ってくる。

鳥井「㊽やあ，どうも。」

伊藤「㊾やあ。」

鳥井「㊿あ，浅草の写真ですね。」

鳥井は，写真を見て笑う。タバコを買いにいっていた松沢が，入ってくる。

松沢「51みんな，そろっていますね。」

大山「52雨は，まだ降っていますか。」

松沢「53ええ，だいぶ降っていますよ。」

㊽「やあ」は，学生などの気さくな間がらで，あるいは目上から目下に対して使われる，あいさつことば。「どうも」は，ここではほとんど意味もなく，あいさつとして使われている。「どうも，ありがとう」は第1課から出ているが，「どうも」だけの文は，ここで新出した。後に「ありがとう」や「すみません」を省略した意味にも使う。

㊿の表現は,「浅草の写真」を発見して，それを確認的に言ったもの。

51の表現は，一種のあいさつことばとして使われている。「そろう」は，こ

の文では，人物などが一か所に集まること。ほかに，まちまちだったものが，ある観点からいって統一をもつようになるという意味もある。目に見えて整列している様子もいう。「そろっている」は，「そろう」という動作がおこった後，その結果の状態が持続していること。あるいは動作に関係なく，単なる状態をあらわしているとも考えられる。くわしくは3.を参照されたい。

㊸は，「雨は」を省いて

㊷′ まだ降っていますか。

とすることも可能である。すでにわかっていることについて言うときは，むしろそうするほうが普通とも言える。ここでは，映画全体にわたる場面と言語上のテーマを，もう一度はっきりと提示するために㊷の表現を使っている。

㊸「だいぶ」は，程度をあらわす表現。程度がやや多いとする判断の意味がはいる。

以上で，この映画の場面に即しての説明を終わる。語句や表現にかかわる問題をとりあげていくと際限がないが，教授上の問題は，これらを取捨して，簡潔な形で学習者にあたえる点にある。

3.この映画の学習内容の解説

2.2.では映画の構成に即して，主な新出語彙・表現について，学習や教授のうえで問題となりそうなものに解説を加えてきた。ここでは，2.1.にかかげた主要な学習目標を，各項目にそって検討し，知識の整理に役だてたい。

3.1.主要学習項目

この課の主要な学習項目である「___てform」として扱われている動詞について考える。

3.1.1. 形態・接続——音便を中心として

『国語学辞典』によると，音便とは

「発音の便宜にしたがって，原音とは違った音に発音するものをいう」と定義づけられる。動詞について狭義にいうと，

「五段活用の動詞が「て」「た」「たり」などに接続するときの，連用形の活用語尾を音便形という」と，いうことができよう。なお「たり」とは,「○○したり，○○したりする」の「たり」である。

音便形は通常の連用形から変化して生じたものともいえるが，上記「て」「た」「たり」への接続の形は現代語では固定していて，元の形というのはあらわれない。上記の狭義の定義が,「現象としての音便」ではなく,「形態としての音便形」について述べている理由である。

ここでは，動詞に「て」「た」「たり」が接続するときの形態について述べ，次に五段活用の音便形について述べる。

A. 「て」「た」「たり」の接続

下一段活用の動詞「ぬれる」に,「て」「た」「たり」を接続して,書き並べてみる。

ぬれて	nuret + e
ぬれた	nuret + a
ぬれたり	nuret + ari

a

b

c

上のbの部分が学校文法でいう語幹であるが，この「___て」「___た」「___たり」の形ではcの部分までが同一形態であり，これは下一，上一形の語例において同じである。初級の日本語学習上は，この形態上の一致を意味の連関にまで拡げて考える必要は必ずしもないであろう。

なお，上のaの部分（nur)を語幹に準ずるものとして考えると，この動詞の活用は下のように記述することができる。

nur プラス

未然	連用	終止	連体	仮定	命令
e	e	eru	eru	ere	ero

語幹プラス次の子音を仮りに語幹に準ずるものとして（たとえば，助ける→tasuk，投げる→nag）おけば，ラ行の活用，カ行の活用などと断わって，それぞれ別に書く必要はなく，上の一種類の記述で間にあう。このことは五段活用でも上一段活用でも同じである。

例：読む，書く，降る

→yom，kak，fur プラス

未然	連用	終止	連体	仮定	余令
a	i	u	u	e	e

例：できる，起きる，見る

→dek，ok，m プラス

未然	連用	終止	連体	仮定	命令
i	i	iru	iru	ire	iro

このように各活用を一種類に記述してしまうやりかたは，日本語教育では，用いられることがある。

しかし五段活用動詞に「て」「た」「たり」を接続しようとすると，上の「語幹に準ずるもの」を不変化のままにしておくわけにはいかない。「て」等は連用形に接続するが，上の例でいうと

yom → yon + de　（撥音便）

kak → kai + te　（イ音便）

furu → fuq + te　（促音便）

となり，⌴で示したところの，学校文法でいう語幹の部分だけが不変であり，その後は書きかえねばならなくなる。

B．五段動詞の音便の形態

上に示したように，口語には撥音便，イ音便，促音便がある。どの音便の形をとるかは，なに行の活用をする動詞であるかで定まっている。この課であらわれたものやその他の動詞を例として，通則を示す。

カ行―イ音便　（書いて，歩いて，ひいて，咲いて）

ガ行―イ音便　（急いで）

タ行—促音便　（育って）

ラ行—促音便　（始まって）

ワ行—促音便　（そろって）

ナ行—撥音便　（死んで）

マ行—撥音便　（読んで）

サ行—音便なし（出して，指して）

ガ行，タ行，ナ行については，この課に例がないので，任意に補った。その他，注意事項として

(1)　同じイ音便でも，カ行は「—いて」，ガ行は「—いで」の形となる。

(2)　「行く」は例外であって，カ行でありながら促音便する。

という二つのことが，あげられる。

その他，通則に外れるものを，橋本四郎（1964）「動詞の音便形」（『ゆれている日本語』所載　明治書院）からまとめると，次のようになる。

(3)　ワ行五段動詞のうち一部のものは，ウ音便をすることがある。　「請うて」「移ろうて」「問うて」など

(4)　上一段活用の「ほろびる」「ほころびる」が，五段活用と認識されて，撥音便することがある。

(5)　ラ行五段動詞についた「ます」が，その動詞に音便をおこさせる。これについては，非音便形は，あまり用いられない。　「くださいます」「なさいます」「ございます」

3.1.2.　「——てform」のしめる位置

この課では中止法としての「—て」，および動作の進行や結果をあらわす「ている」の形が扱われている。一般に「て」は（「で」も同列として）動詞だけにつくのではない。また，特に中止法としての用法に着目するならば，いくつかの単語および単語の一部に同じような機能がみられ，これらを総括して，ひとつのグループとして扱う必要がでてくる。

㋐　形容詞の連用形に「て」のついたもの　例：「天気がよくて」

㋑　形容動詞の連用形　例：「きれいで」

㋒　名詞に助動詞「だ」の連用形がついたもの　例：「（これは）万年筆で（ボールペンではない。）」

㋓　動詞の連用形につく「て」。五段動詞には，音便をうながしてつく。

これらのうち，「て」の後にさらに補助動詞をつけて多様な意味をあたえる作用については，名詞と形容動詞に少々あり，動詞において，いちじるしい。ここでは形態のうえで，動詞＋「て」＋補助動詞の形を見て行く。

動詞＋
- 中止
- すがた
  - ている
  - てある
  - その他
- もくろみ　（ておく，てみる等）
- 依頼，許可，禁止　（てください等）
- やり，もらい　（てやる，てもらう等）
- その他　（ても，てさえ，てすら等）

図の分類のうち，「すがた」はアスペクト表現ともいい，さらにその中に属する「ている」が，この課で扱われている形である。高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」(『日本語動詞のアスペクト』所収　金田一春彦編　むぎ書房1976）によると，「動詞のあらわすうごきの過程のどの部分を問題にするかという，文法的な意味を『すがた（aspect）』という」と定義づけられている。なお，3.1.4.の「ている」に関する考察は，上記『日本語動詞のアスペクト』所載の各論文をもとに，まとめたものである。

アスペクト表現には「ている」の他に，さまざまの形態がある。文法諸家によって，あげる数には違いがあるが，「て」＋補助動詞の形としては，おおむね次のようなものが，あげられる。

—ている，—てある，—てしまう，—ておく，—ている，—ていく，—

てまわる，—てあるく，—てみる

また，「て」＋補助動詞の形以外のアスペクト表現として，

—はじめる，—だす，—かける，—かかる，—つづける，—つづく，

—とおす，—おわる，—おおす，—やむ，—やめる，—きる，—はてる，

—あげる

などが，あげられる。

「動詞＋て」および，その他の「て」の大まかな位置づけと形態を見たが，以下では，中止法としての「＿＿て」と，アスペクト表現としての「＿＿ている」に限定して，意味と用法を整理しておく。その他の「＿＿て」の形については，第十二課以降の解説書で扱うこととする。

3.1.3. 中止法としての「＿＿て」の意味・用法」

この課では，場面Ⅰ－2とⅠ－3で集中的に扱われる。以下に意味・用法を分類し，この課にあらわれた表現を文番号とともに例示する。この場で任意に補足した例文もある。

なお，分類は池尾スミ(1964)「テのいろいろ」(『口語文法の問題点』所載明治書院）によるものを基本とした。

(1) 動作・作用の先行をあらわし，前件と後件とのあいだを軽く順序づける。

⑦ 朝は，いつも，7時に起きて，かんたんな朝食をとります。

⑧ 8時に下宿を出て，駅まで5分，歩いて，板橋駅で，電車に乗ります。

⑩ 学校は，9時に始まって，4時ごろ終わります。

⑪ 夜は，7時ごろ，食事をして，少し，テレビを見て，それから，11時ごろまで，勉強して，寝ます。

⑭ まず，お寺へいって，それから，町を歩いて……

(2)動作・作用のの時間的経過をあらわす。

（つぎに「から・以来・以後」などが続きうる。接続形の下に疑問副詞や年月・時間をあらわす副詞がくる。）

〔22〕おかあさんがなくなって何年になりますか。

(3) 同時に動作・作用がおこなわれる，または起こる。

⑭ ……それから，町を歩いて，買物をしました。

⑮ 帰りに，みんなで，焼鳥を食べて，ビールを飲みました。

その他に，次のような用法もある。

(4) 単なる対比・並列・列叙をあらわす。

〔23〕ぼくは行って，きみは残る。

(5) 下にくる語を修飾し，条件を示す。かるく，原因・理由を示す。または，逆説の条件「のに」の意をあらわす。

〔24〕8時間も歩いて，足にマメができてしまった。

〔25〕知っていて話してくれない。

(6) 手段をあらわす。

〔26〕働いて借金をかえす。

〔27〕歩いてバス停まで行く。

なお，(5)の原因・理由をあらわす用法については，文末表現として，とり得ない形が存在する。

〔28〕寒くなって，ストーブをつけなさい。

〔29〕嵐がきて，泳いではいけません。

〔30〕イスをこわして，なおすことにしよう。

〔31〕お金を使ってしまって，借してください。

これらの「—て」を「—ので」と言いかえれば意味は通るが，このままでは正しい文とは言えない。このように，命令，禁止，意志，依頼などの，積極的な要求・意志をあらわす表現を文末とするときは，(5)の意味の中止法を使うことはできない。

3.1.4. 「ている」の意味・用法

2.2で場面に即して見たように，「ている」には，いくつかの用法がある。この課で出現した表現を文番号とともに例示しながら，以下に分類を掲げる。この場で任意にあげた文例もある。

(1) 動作・作用の進行

動作・作用がおこなわれている過程の途中にあることを示す。過去のある時におこり始めた動作・作用が，現在を通りこして，未来のある時まで続くということである。現在形の「—ている」の形では，文例①，②などに見られるように，特に眼前にいま起こっていることを描写する，という場合にも使われる。

過去形「—ていた」となると，過去のある時点において動作・作用が進行中であった，ということをあらわすことになる。この過去の形では，現在において，その動作・作用がまだ続いているのか，それとも終わってしまったのか，構文自体としては叙述していない。前後の状況から判断が可能である場合も，不可能な場合もある。

① 今日は，雨が降っています。

② 風も，少し，吹いています。

③ 木の葉が雨にぬれて，ゆれています。

⑤ 私は，今，自分の部屋で手紙を書いています。

㉒ 何をしていたんですか。

㉓ 小説を読んでいました。

㉕ 伊藤さんは，手紙を書いていたんですね。

㉖ ええ，友達に手紙を書いていました。

㉗ まだ，雨が降っていますね。

㉞ 鳥井さんは，今，何をしていますか。

㊱ さっきまでギターをひいていましたよ。

㊷ 雨は，まだ降っていますか。

㊸ ええ，だいぶ降っていますよ。

(2) 動作・作用の結果の状態

動作・作用がおこなわれた結果，主体に変化を生じ，その変化が状態として持続している様子を示す。(1)と違うのは，動作・作用自体はもう終わってしまっていて，残った結果を問題にしている点である。

③　木の葉が雨にぬれて，ゆれています。

④　庭には，菊の花が咲いています。

⑥　私は，東京の板橋に下宿しています。

⑰　大山さんや鳥井さんは，来ていますか。

⑱　いいえ，来ていませんよ。

㉙　ちょっと，タバコ屋へ行ってきます。

㊷　松沢さんは，今，タバコを買いに行っています。

㊶　みんな，そろっていますね。

(3)　単なる状態をあらわす。

〔32〕　山がそびえています。

〔33〕　この道は，まがっています。

などのようなものである。これらは，動作・作用が現在進行中のものとは見られない。また(2)の意味にも分類できない。山がそびえ始めたり，道がまがり始めたりする動作を考えても，それが意味を持たないからである。

以上が「—ている」の主要な用法だが，さらに以下のようなものもある。

(4)　経験・記録

以前の動作・作用を経験や記録としてあらわすもの。

〔34〕　今月は，もう二回，雨が降っています。

〔35〕（去年行ったときは）鎌倉まで3時間，かかっています。

(5)　くりかえしの進行

同じ動作・作用がくりかえし起こるとき，その過程をひとつの連続したものと見なして，進行の形と同様に言う。

〔36〕　私は毎日，学校に行っています。

〔37〕　朝は，いつも，7時に起きています。

以上，「—ている」の(1)〜(5)の用法に使われる動詞には，ある制限がある。「—ている」表現をとるか否か，とれるとすれば，どの用法になり得るのか，を基準に動詞を分類してみると，次のようになる。これはおおむね，高橋太郎「すがたともくろみ」（前出）によった。

状態動詞……「している」にならない　　例：「いる」「ある」
状態動詞でない動詞 ⟶

	継続動詞	
主体に変化を生ずる動詞	a. のびる，着る	b. パンクする，死ぬ
主体に変化を生じない動詞	c. はしる，見る	d. ぶつかる，目撃する

➡(2)

⬇
(1)

ここで状態動詞とは，もともと，ある状態をあらわすための動詞であって，あらためて「ている」をつけて進行や状態をあらわす必要がないものである。また，これらには「ている」をつけた形が存在しない。これに属する動詞には他に，「話せる」，「値する」などがある。形容詞もまた，状態の意味を個々に含んで持っているので，「―ている」がつくことはできない。形容詞を動詞の一種とする立場をとるならば，この状態動詞の仲間に入れ，その中で特殊な活用の型をもったもの，と分類することができよう。

上記論文「すがたともくろみ」では，状態動詞でないものを，〈主体に変化を生ずる動詞であるか否か〉という軸と，〈継続動詞であるか瞬間動詞であるか〉という軸をとって十字分類している。〈主体に変化を……〉の軸は，藤井正（1966）「『動詞＋ている』の意味」で，〈結果動詞――非結動詞〉と呼ばれている分類と同様のものである。

「主体に変化を生ずる動詞」とは，動作・作用のあとさきで，その主体となるものの状態がかわってしまうもののことを言う。他動詞は，これにあてはまらないことが多いが，用法次第であって，たとえば次の⑤″は「主体に変化を生ずる動詞」として使われていて，〔38〕は「主体に変化を生じない動詞」として使われている。

⑤″　私は，今，手紙をかいています。

〔38〕私は，眉ずみで眉をかいています。

「ている」の用法でいうと，⑤″は進行，〔38〕は結果の状態をあらわす。

継続動詞とは，動作・作用に多少の時間を要するもので，それが目のまえで起こったとき，動作・作用が現在，進行の途中であることを指摘できる性質のものである。逆に瞬間動詞とは，その動作・作用が瞬間的に終わってしまい，結果だけが残る性質のものである。

これらを前ページ図のように十字分類した結果できる4種類の動詞を，ここでは便宜的にa～d類と呼んでおく。個々の動詞がどの分類に入るかは，あらかじめ大体きまっているが，⑤″,〔38〕で見たように，その場でどう使われているかにもよる。

継続動詞の軸に属するa類，c類の動詞は，「____ている」の意味・用法でいう(1)の分類にはいり，進行の意味をあらわす。「主体に変化を生ずる動詞」の軸に属するa類，b類の動詞は，「____ている」の(2)の分類，すなわち結果の状態の意味となる。これからわかるように，a類の動詞は場合によって(1),(2)両方の意味に使われることになる。

〔39〕 彼は今，服を着ています。(しばらくお待ちください。)

〔40〕 彼は赤い服を着ています。

〔39〕は進行，〔40〕は結果の状態をあらわしている。

瞬間動詞であって主体に変化を生じないd類の動詞は，(1)，(2)のいずれの意味にもならない。これに「ている」がつくと，先の意味の分類(4)の，経験・記録の意味になる。

この課で使われている「ている」形の動詞は，a～cの分類に属し，dのものは含まれていない。各動詞がa～cのどれに属するかを，以下に示しておく。

a類　主体に変化を生ずる，継続動詞　——この課では，すべて(2)結果の意味に使われている

⑰⑱来ています　㊷行っています

b類　主体に変化を生ずる，瞬間動詞　——(2)結果の状態をあらわす

③ぬれています　④咲いています　⑥下宿しています　㊺そろっています。

なお，⑥「下宿しています」は，(3)単なる状態をあらわす，とも考えられる。

c 類　主体に変化を生じない，継続動詞　——(1)進行をあらわす。

①㉗㊷㊸降っています　②吹いています　③ゆれています。　⑤㉕㉖書いています　㉒㉞しています　㉓続んでいます　㊱ひいています

3.2.　その他の学習項目

2.2.でかかげた学習項目のうち，「でも」，「まだ」，「ちょっと」について，ここでやや詳しく扱う。また，あいさつことば，聞きとりの訓練について述べる。

3.2.1.　「でも」について

場面II－2で，助詞「でも」が新出している。

㊲　コーヒーでも，いれましょうか。

この「でも」は副助詞とも係助詞とも言われる。気分的・感情的な表現として多く用いられる。ここでは，この「でも」の接続法と意味について述べる。

A.　接続法

「でも」の接続の形態としては，既成の文に挿入されて，「でも」の持つ特有の意味をつけ加えるものと考えられる。その意味については後で述べる。

㊲′　コーヒー［を／でも］，いれましょうか。

〔41〕(ペンではなく) 鉛筆［が／で／でも］いいです。

〔42〕散歩 | に / にでも / でも | 行きましょうか。

〔43〕東京 | へ / へでも / でも | 行きましょうか。

〔44〕新宿 | から / からでも | 来るのでしょう。

〔45〕天国 | と / とでも | 呼びましょうか。

以上の文例で見たように,「でも」は，格助詞のあとにつくことができる。しかも〔42〕〜〔45〕を見てわかるように，おおむね，もとになる文を傷つけることなく，挿入的に入れることが可能である。しかし「をでも」とは使えないし,「がでも」とも言わない。それらの形には,「を」や「が」を取りのぞいて,「でも」が入ることになる。

それとは逆に，〔44〕の「から」の文と〔45〕の「と」の文に「でも」を加えようとすると,「からでも」「とでも」の形だけが可能で，単なる「でも」は成り立たない。〔42〕，〔43〕の「に」「へ」については，「でも」を挿入しただけの形も，助詞を取りのぞいた形も，ともに成り立つ。

また,

〔46〕 ペンでも鉛筆でもいい。

という形もあるが，これは〔41〕と以た用法と見ておく。

B. 意味

第2章の場面編で述べたように,「でも」は，きびしく制限せず，大体のところをあげるのに使う。選択の範囲がいくつかあることをにおわせ，ひとつのものを例示しながらも，特にそれを指定しない言い方。㊲のように，しば

しば「～ましょう」「～ましょうか」と問いかけの文末を持つが，この形は，例示したものを相手に選択させる気持ちで使われる。

また㊲のような形は，時にひとりごととして発せられることもある。その場合，話し手自身で提議して，動機があいまいなまま選択・決定がおこなわれる。一種のかけ声として使っていることになる。

「コーヒーでも」と言ったときは，当然，「希望によっては紅茶でも緑茶でも，その他ものでもいいが」という選択の範囲が示されていることになるが，また一方で，この㊲の文は

㊲′ コーヒーをいれることにでも，しましょうか。(しても，しなくてもよいが。)という意味に使われることもある。この，「でも」をつけられた名詞ではなく，行為そのものが選択の対象になっている気分は，

〔42〕散歩にでも行きましょうか。

などという文においては，やや強くなっている。

3.2.2. 「まだ」について

場面II－1から，ふたたび引用する。

㉗ まだ，雨が降っていますね。

「まだ」は，予想する段階に至らないことを示す副詞である。代表的用法をあげると，次のようになる。

㋑ 否定語をともなって，ある事態が実現していないことを示す。(第十課に出現した。)

㋺ 肯定表現にもちいて，以前からの状態が継続していることを示す。

また，他に次のような用法がある。

㋩ 不充分ではあるが，他とくらべて相対的に，評価できる事態である，という価値判断を示す。

㋥ さらに一段と程度が進んだ状態であることを示す。

㋺ の用例がこの㉗にあたる。㋑の用例は，㉗の動詞を入れかえ，さらに否定形にして

㉗′ 雨はまだ，(降り) やみませんね。

が，それにあたる。㈠，㈡の用法はそれぞれ，

〔47〕これは，（それにくらべれば，）まだ値段がやすい。

〔48〕目的地までは，まだ10キロメートルあります。

が考えられる。

㈢の肯定表現をともなう用法では，「ある」「いる」などを除いた動作動詞では，一般に「まだ―ている」と対応して使われる。これは状態の持続が意識された結果である。したがって，形容詞や形容動詞が述部になっているときは，この限りではない。

〔47〕′これは，（他のものは値上がりしたのに，）まだ値段がやすい。

動詞が述部であって，かつ㈢の用法に分類すべきものは，たとえば

〔49〕まだ，そんなことを言う。（いいかげんに，やめなさい。

のように，強い感情の表白をともなうなどの特殊用法である。）

3.2.3. 「ちょっと」について

場面II－1から再び引用する。

㉙　ちょっと，タバコ屋へ行ってきます。

㉙「ちょっと」は，意味領域において「少し」と重なる部分が多い。ともに数量・度合いのいちじるしくないことを述べる表現だからである。ただしこの㉙の用法のように，行為に要する時間や労力が軽微であることを言うのは，「ちょっと」の大切な用法である。㉙の「ちょっと」を「少し」と言いかえても表現としては成り立つが，あまり一般的ではない。

〔50〕ちょっと，お待ちください。

〔50〕′すこし，お待ちください。

〔50〕″お待ちください。

受け付けなどで聞かれる表現であり，三つともよく使われる。〔50〕と〔50〕′を比べてみると，〔50〕′の方が文語的で丁寧，それゆえ冷静な感じを与える。相手が急ぐとき，事態が切迫しているときは，〔50〕がふさわしい。特に緊急のとき，また相手への気がねを表明したいときは，「ちょっと」の部分に強いプロミネンスを与えて発音することが，よくある。

いっぽう〔50〕″は，この場合，〔50〕′と大同と考えられる。時間の指定がないからといって，〔50〕′よりも長い待ち時間を要求しているとは限らないが，切迫度からいうと，〔50〕′よりもさらに弱い。

㉙に戻って，これから「ちょっと」を抜き去った文を考えてみる。

㉙′ タバコ屋へ行ってきます。

この表現を文脈の中に入れて考えると，座を立つに際しての，あいさつことばとして使われていることがわかる。親しい間がらでも，中座するときには，その理由についての申し開きがないと礼を失するからである。他にもこの文には，場面および文脈とのかかわり上，内在的には，さらにいくつかの意図の表明を見ることができるが，明瞭ではない。ただひとつ言えるのは，タバコ屋に行ってから，戻ってくることははっきりしているが，この部屋そのものに戻ってくる意志があるかどうか示していない点である。

㉙′に「ちょっと」をつけて㉙にすると，この部屋に，この相手の面前に戻ってくる意志がつけ加わってくる。こうした事情は，座を立ち，その場から姿を消すときのあいさつことばである，

〔51〕失礼します。

〔51〕′ちょっと失礼します。

を見ると，はっきりする。こうした場合の「ちょっと」は,「ちょっとの間」と時間をくぎって指定しているのであり，その時間が過ぎれば事態は原状に復する（つもりである）ことを含み述べていることになる。

3.2.4. あいさつことばについて

会話のなかで，あいさつに関係した表現について述べる。この映画の最後の場面（II－3）から，ふたたび会話を引用する。

松沢「㊶みんな，そろっていますね。」

大山「㊷雨は，まだ降っていますか。」

松沢「㊸ええ，だいぶ降っていますよ。」

㊶の表現は，「みんながそろっている」ことを述べようとして発せられたのではなく，一種のあいさつことばとして使われている。二人か三人以上かは

問わず，複数の人が出会って，ひとつの場を作るとき，おのずと，あいさつの手続きが必要となる。ふつうそれには，音声による言語表現が使われるが，そればかりではない。しぐさや表情であってもよい。

複数の人びとの場にもう一人が参加する場合に限って考えても，どちらの側からあいさつを発するかなどの形は様ざまであって一律ではない。㊶では，あらたに参加する側の人間が，まず参加することへの意志表示をしたことになる。それに続いての，新参者に対する㊷「雨はまだ降っていますか。」の質問もまた，あいさつことばの延長と見られる。質問者にとって，雨がまだ降っているかどうかが，どれほどの関心事であるかはわからないが，問いかけという形そのものが，相手を認識し，また相手がそこにいあわせることの価値を，なにがしか評価していることになるからである。

㊶㊷の会話では，㊶で「みんな，そろっている」状態に満足の意をあらわし，それを受けて㊷の質問で参加者の存在を評価するというやりとりが，会話の意味のうえでの流れとなっている。

これらの一見あいさつ風でないあいさつことばは，「こんにちは」「おはようございます」などの定形化したあいさつことばの代わりに使われているようにも見える。しかし状況に応じての意味のあるやりとりという点では，この場面の会話のほうが本来のものである。むしろ「こんにちは」などのほうが，定形化された一種の代用品としてあるのだと言えよう。

一般に，親しさの程度が増して，気心が知れあうようになると，型にはまったあいさつは，あまり顕著にはあられなくなる。しかし，この場面に盛りこまれたようなあいさつは，かなり親しい間がらでも，なかば無意識におこなわれる。さらに程度が進むと，このようなあいさつをも省略することが，より親密であることの表現にもなってくるようである。

3.2.5. 聞きとりの訓練

この映画のシリーズでは，人物の名前などには，特殊なものを避け，一般的なものを使うことにしている。また地名などの固有名詞は原則として伏せてある。この第十一課ではひとつの試みとして，人物名に，よくある一般的

なものでありながら，外国人にとって聞きとり・発音がかならずしも容易でないものを選んだ。また，やきとりというのも，日本文化としては無名ではないが，日本語教育では，聞きとりにくい特殊用語である。さらに板橋，池袋，浅草という地名も，意識的に提示するようにしてある。授業時に，これらを聞きとり練習に役だててほしいという配慮からである。

聞きとりにくい名称を織りこむという試みは第十三課にひきつがれることになる。また地名については第九課で「鎌倉」が，第十課で「修善寺」が提出されている。この課のものを含めていずれも，日本に関する知識として有用なものである。授業では，地名から日本の地理や日本事情・文化へと話がひろがることを期待する。この課にあらわれた地名について，次に簡単に解説しておく。

(1) 板橋

東京都北部にある区。またそのなかの町名。この映画では，⑧「…（板橋）駅まで5分，歩いて……」とあるところからみて，下宿は板橋の町内であろう。池袋と赤羽を結ぶ国電赤羽線の，始点と終点を徐いた2駅のなかのひとつが板橋駅である。

板橋区，豊島区，北区の一帯は城北地区と呼ばれ，東京東部の下町とはまた違った，落ちつきのある庶民の町である。住宅地のあいだに中小の工場が散在し，なかでも板橋区には印刷，光学関係が多い。

(2) 池袋

東京都北部にあり，豊島区の中心地。東京駅を中心とする一帯と新宿副都心に次ぎ，東京で3～4番目の繁華街，ビジネス街でもある。池袋駅には山の手線が通り，赤羽線と2本の地下鉄・2本の私鉄が発する。道路は環状5号線（明治通り），首都高速5号線（池袋線）と国道254号線（川越街道）が走る。高層ビルが目立ち，大規模な都市計画が進められている。附近には立教大学，自由学園，東京音楽大学，少し離れて学習院大学がある。

(3) 浅草

東京都台東区にある門前町，繁華街。「浅草へ行く」といえば，この課のせ

りふにもあるように，「お寺におまいりに行く」のと同義であることが，しばしばである。「お寺」は，金竜山浅草寺。聖観音宗の本山で，坂東順礼十三番の札所。その門前の仁王門から雷門まで，みやげ物を売る仲見世が並ぶ。さらに周囲には商店，飲食店，劇場，映画館が集まり，古く浅草六区と呼ばれた賑わいを残す。

3.3. 語彙の拡充

この映画で取り上げた主要な語を中心にして語彙の発展的学習を考えてみたい。補助教材の作成や練習問題の作成の際に利用できるものと思う。

A. 「ぬれる」をもとにして

○かわく　○ふくれる　○ちぢむ　○しぼむ　○しわになる　○とける

B. 「ゆれる」をもとにして

○止まる　○動く　○かたむく　○振れる　○振動する　○ずれる　○落ちる　○舞う　○まわる　○回転する

C. 「咲く」をもとにして

○花がひらく，しぼむ，枯れる

○葉が色づく，紅葉する，落ちる

○根が張る　○枝，茎が伸びる

D. 「始まる」「終わる」をもとにして

○つづく　○やめる　○とめる　○おこなう　○かかる

E. 「買物をする」をもとにして

○仕事をする　○勉強をする　○料理をする　○洗たくをする

F. 「疲れる」をもとにして

○たおれる　○なおる　○くつろぐ

G. 「おもしろい」をもとにして

○たのしい　○かなしい　○つらい　○うっとうしい　○ゆかいだ　○ほがらかだ

H. 「そろう」をもとにして

○集まる　○整列する　○乱れる　○欠ける　○別かれる

次に，事物等の表現をめぐって。

A. 「雨」「風」などをもとにして，気象現象・自然現象の名称と，それに対応する動詞

○雪，霙，雹――降る　○霧，霜――降る，降りる　○霞――かかる　○嵐――吹く　○雷――鳴る，落ちる　……その他，台風，スモッグ，季節風，黄砂

B. 「木の葉」「菊の花」に類する，名詞どうしを「の」でつないだ定形的表現

○ [木 花 草] の根　○ [木 草] の [葉 実]　○ [日 月] の出

○ [男 女] の [子 人]　○卵の [白身 黄身]　○鳥の羽根　○髪の毛

○脇の下　○世の中　○海の家　○台風の目

C. 「手紙」に関連して

○封筒　○便箋　○切手　○葉書　○書留　○速達　○為替　○振替　○郵便　○郵便局　○郵便配達

D. 「下宿」をもとにして

○寮　○アパート　○マンション　○まかない　○電気代　○共益費　○門限　○呼び出し　○当番

E. 「朝食」をもとにして

○昼食　○夕食　○夜食　○(お)弁当　○間食　○おやつ　○食事

F. 「駅」「電車」をもとにして

○改札口　○プラットフォーム　○定期券　○切符　○自動販売機　○行き先　○終点　○自動ドア　○禁煙　○上り　○下り　○落としもの　○事故　○遅れ

G.「お寺」をもとにして

○お堂　○お経　○お墓　○お宮　○駒犬　○鳥居　○おさいせん　○教会

H.「ビール」をもとにして

○ジュース　○コーラ　○サイダー　○日本酒　○お酒　○ウイスキー　○ワイン　○ブランデー　○シャンパン

I.「タバコ」をもとにして

○マッチ　○ライター　○灰　○灰皿　○パイプ　○きせる　○紙巻き　○葉巻き

J.「写真」をもとにして

○プリント　○現象　○印画　○ネガ　○フィルム　○写真屋　○カメラ　○フラッシュ　○ストロボ　○レンズ　○露出　○感度　○ピント

3.4. 練習問題

まず，「___て」「___ています」の形を作ることを中心に，動詞の変化を練習しよう。

A－1　例にならって，以下の動詞の変化を言いなさい。

（例）　みる⟶みて　みています　みていました　みていません　みていませんでした

1. おきる　2. おりる　3. たべる　4. つかれる　5. ねる　6. ゆれる
7. はなす　8. あるく　9. かく　10. さく　11. ひく　12. ふく　13. いく　14 .いそぐ　15. かう　16. そろう　17. まつ　18. もつ

19. おわる　20. とる　21. のる　22. はじまる　23. ふる　24. しぬ　25. よむ　26. よぶ
27. くる　28. する　29. げしゅくする　30. べんきょうする　31. しょくじをする

A－2　例にならって，上の1.～31.を，それぞれ言いかえなさい。

（例）みる⟶みている　みていた　みているんです　みていたんです

B　例にならって，以下の文を作りなさい。

（例）（テレビをみる　べんきょうする）⟶（テレビをみて，べんきょうしました。）

B－1　〈「て」の時間的順序の用法〉

a.（げしゅくをでる　えきまであるく）

b.（7じにおきる　ちょうしょくをとる）

c.（いけぶくろで，バスにのる　しんじゅくで，バスをおりる）

d.（でんしゃをおりる　がっこうまで，あるく）

e.（がっこうは，9じにはじまる　5じにおわる）

f.（10じまで，べんきょうする　12じに，ねる）

g.（しょくじをする　しんぶんをよむ）

h.（てがみをかく　ねる）

i.（かまくらにいく　かいがんをあるく）

j.（コーヒーをのむ　しんぶんをよむ）

B－2　〈「て」の同時進行の用法〉

a.（コーヒーをのむ　しんぶんをよむ）

b.（まちをあるく　かいものをする）

c.（ごはんをたべる　みそしるをのむ）

d.（ビールをのむ　チーズをたべる）

C　例にならって，以下の文を作りなさい。

（例）（コーヒーをのむ　しんぶんをよむ）⟶（まずコーヒーをのんで

それから，しんぶんをよみました）

a.（ちょうしょくをとる　　しんぶんをよむ）

b.（ふろにはいる　　べんきょうする）

c.（しんじゅくへいく　　いけぶくろへいく）

d.（おてらへいく　　まちをあるく）

e.（べんきょうする　　ギターをひく）

f.（はしをわたる　　とりいのしたを，とおる）

g.（タクシーにのる　　かいがんまで，あるく）

つぎに，ピクチャー・カードまたは写真，ビデオなどを見せて，文の述部を言わせる練習をしょう。

C　絵を見て，例のように文を完成させなさい。（解答の一例を，カッコ内に示す。）

（例）　あめが⟶あめがふっています。

C－1　〈「ている」の進行の用法〉

a.　かぜが，（ふいています。）

b.　このはが，（ゆれています。）

c.　○○さんは，（てがみをかいています。）
（ギターをひいています。）
（あるいています。）
（べんきょうしています。）
（テレビをみています。）
（コーヒーをのんでいます。）
（コーヒーをいれています。）

d.　こどもが，（あそんでいます。）

C－2　〈「ている〉の状態の用法〉

a.　バラのはなが，（さいています。）
（ぬれています。）

b.　しょくじが，（できています。）

（はじまっています。）

（おわっています。）

c.　○○さんは，（ねています。）

（おきています。）

（つかれています。）

（タバコやへいっています。）

（かえっています。）

（でんしゃにのっています。）

（げしゅくしています。）

C－3　上のC－1，C－2で示したのと同じ絵を見ながら，先生とのあいだで会話をしなさい。また，生徒どうしで会話をしなさい。

（例）　かぜは，ふいていますか。ええ，ふいています。

いいえ，ふいていません。

C－4　上と同じく，C－1，C－2で示した絵を見ながら，例にならって会話しなさい。

（例1）　かぜは，ふいていますか。

ええ，まだ，ふいています。

さっきまで，ふいていました。

注1：C－2のbの文には，肯定形のままでは，「まだ」「さっきまで」を入れることは不可能である。また，授業に際して，既習事項の関係で「まだ」対「もう」の問題に深入りできないときは，このC－4の練習には，充分注意を要する。

注2：「さっきまで」が発話される状況を生かすために，いったん見せたピクチャー・カードを伏せて，眼前に絵が見えない状態で発話させるなどの工夫がほしい。

時や数量をあらわす副詞，および副詞的な語句の練習をしよう。

D－1　例にならって，後に示した語句を文のなかに入れなさい。

（例）　えきまで，あるきます。　（5ふん）⟶えきまで，ごふん，あるき

ます。

a. げしゅくには，ともだちが，います。（3にん）

b. みんなで，チーズをたべて，ビールをのみました。（2ほん）

c. あさくさで，かいものをして，しゃしんを，うつしました。（10まい）

d. きょうは，ともだちに，てがみをかきます。（2つう）

e. きょうは，あめが，ふっています。（すこし）

f. さっきまで，かぜが，ふいていました。（だいぶ）

ピクチャー・カードなどの映像的手段を用いて，次のような表現を，生徒の口から導き出そう。

E－1

わたしは かれは いとうさんは ふたりとも いとうさんや， まつざわさんは いとうさんと， まつざわさんは	じぶんのへやで	てがみをかいています。 ねています。 テレビをみています。 ギターをひいています。 しょくじをしています。

E－2

いとうさんは ふたりとも いとうさんや， まつざわさんは いとうさんと， まつざわさんは	じぶんのへや がっこう タバコや げしゅく えき	でしょう。

F　絵を見て，「でも」と「も」のどちらが正しいか，言いましょう。

a. | コーヒー
こうちゃ
おちゃ | {でも / も}，いれましょう

b | こうえん
さんぽ
あさくさ | に {でも / も}，いきましょう。

c. いとうさん{でも / も}，よびましょう。

G　カッコのなかに「で」「に」「へ」「を」のうち，どれかを入れなさい。
また，入れない方がよいときは○を書き入れなさい。

a. わたしは，まいにち，がっこう(　)，べんきょうしています。
b. いたばしえき(　)，でんしゃ(　)のります。
c. きのう，しんじゅく(　)いきました。
d. ふろ(　)はいって，ゆうしょく(　)とりました。
e. わたしは，へや(　)，ともだち(　)，てがみ(　)かいています。

4. おもな参考文献

I．文法事項の解説にあたって参考にした書籍は，次のとおりである。

1. 金田一春彦編　1976 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房
2. 1958 『日本文法講座 5　表現文法』 明治書院
3. 時枝誠記監修　1967 『日本語の文法 3　品詞各論』 明治書院
4. 時枝誠記・遠藤嘉基監修 1964『国語文法講座 3　ゆれている日本語』明治書院
5. 時枝誠記・遠藤嘉基監修　1964 『講座現代語 6　国語文法の問題点』

明治書院

6. 三浦つとむ 1975 『日本語の文法』 勁草書房

1は，「ている」表現の解説に際して，全面的に参考とした。巻末にアスペクト表現研究に関する詳細な文献目録が付されている。

なお，所載論文のうち，つぎの2篇は本文中に一部引用した。

藤井 正 1966 「『動詞＋ている』の意味」

高橋太郎 1969 「すがたともくろみ」

2.以下の書籍について，参考とした所載論文を以下に示す。

2.より

芳賀 綏 「用言」

3.より

井手 至 「形式名詞とは何か」

4.より

橋本四郎 「動詞の音便形」

長田久男 「『いいです』と『いいんです』」

奥津敬一郎 「『の』のいろいろ」

辻村敏樹 「面白かったです・面白いでした」

5.より

吉川泰雄 「形式名詞」

福島邦道 「補助動詞」

林 大 「ダとナノダ」

池尾スミ 「テのいろいろ」

II. 語釈および個有名詞（地名）の解説には，つぎのものを参考にした。

7. 金田一京助ほか編 『日本国語大辞典』 小学館

8. 西尾・岩淵・水谷編 『岩波国語辞典』第三版 岩波書店

資　料

資料1.　使用語彙一覧

これは，この映画中に言語表現として現れた全ての語について一覧表にしたものである。資料2.のシナリオ全文同様，教材として活用できることも考慮してかな（ひらがな，かたかな）書きにしてある。

1．見出し語はアイウエオ順に配列し，そこにその使用文例を全て書き出した。

2．見出し語の認定については，初級日本語教育の立場に立っている。

2－1．接頭辞「お」や，接尾辞「えき(駅)」「さん」「じ(時)」「にん(人)」「ふん(分)」「や(屋)」は，見出し語として取り上げている。

2－2．数詞は，助数詞と切り離して見出し語にしている。ただし「ふたり」は一語扱いにして，見出し語として立てている。

2－3．動詞は，従来の扱いと違って終止形を見出し語にしている。

2－4．サ変複合動詞「下宿する」「勉強する」等は，「する」を切りはなし，二語扱いにしている。

2－5．形容詞は，「＿＿な」の形を見出し語にしている。

2－6．「です」に前接する「人」は，一語扱いにして見出し語にしている。

2－7．「おねがいします」等，慣用的表現として扱ったものは，そのまま見出し語にしている。

2－8．接続助詞「て」は，ここでは動詞部分に含め見出し語にしていない。

3．見出し語の語義，活用変化，他の語との結びつき等に基づいて下位分類する場合には，(1)(2)……のようにした。

3－1．「えき(駅)」は，名詞である場合と接辞である場合で下位分類した。

3－2．「下宿」等は，名詞である場合とサ変複合動詞になる場合で下位分類した。

3－3．動詞は，まず本動詞としての用法と補助動詞との用法で大きく二分した。《本動詞の場合》「ます形」であるか，中止法であるかで下位分類してある。また常体での言い方，たとえば「いる」「いた」等は，一語扱いにして、上記のものとは別の分類にした。《補助動詞の場合》補助動詞が違えば，下位分類してある。ただし，その意味，用法の違いによる下位分類はしていない。

3－4．「です」は，「です」「ですか」「んです」により下位分類してある。

3－5．助詞「か」「が」「で」「に」「を」は，その意味，用法によって下位分類してある。

4．「ます」及びその変化形の「ません」「ました」については，文例の列挙を省略し，文番号だけを示した。ただし「ましょう」は省略していない。

5．使用文例の文頭には，①②……の数字がつけてある。これはシナリオでの文通し番号であり，この解説書全体に共通のものである。同一見出し語内では，この順に文例を提出した。(1)(2)……と下位分類した場合にも，その分類内で同一の提出順をとっている。全くの同一文については，通し番号を横に並べ引用を一回ですませた。

6．見出し語の横には，〔　〕で当用漢字の範囲内で漢字を示し，またその横には(　)で語の使用回数を示した。

あ（1）

㊿ **あ**，あさくさのしゃしんですね。

ああ（2）

㉛ **ああ**，あさくさのしゃしんですか。

㊹ **ああ**，そうですか。

あーあ（1）

㉑ **あーあ**。

あさ〔朝〕（1）

⑦ **あさ**は，いつも，しちじにおきて，かんたんなちょうしょくをとります。

あさくさ〔浅草〕（4）

⑬ せんしゅうのにちようび，このさんにんのともだちと，**あさくさ**へいきました。

㉚ いとうさん，**あさくさ**のしゃしんができましたよ。

㉛ ああ，**あさくさ**のしゃしんですか。

㊿ あ，**あさくさ**のしゃしんですね。

あっ（1）

⑳ **あっ**，そうですか。

あめ〔雨〕（4）

① きょうは，**あめ**がふっています。

③ このはが**あめ**にぬれて，ゆれています。

㉗ まだ，**あめ**がふっていますね。

㊷ **あめ**は，まだふっていますか。

あるく〔歩く〕（2）

⑧ はちじにげしゅくをでて，えきまでごふん，**あるいて**，いたばしえきで，でんしゃにのります。

⑭ まず，おてらへいって，それから，まちを**あるいて**，かいものをしました。

いる（20）

(1)⑫　げしゅくには，ともだちがさんにん，**い**ます。

(2)①　きょうは，あめがふって**い**ます。

②　かぜも，すこし，ふいて**い**ます。

③　このはがかぜにぬれて，ゆれて**い**ます。

④　にわには，きくのはながさいて**い**ます。

⑤　わたしは，いま，じぶんのへやでてがみをかいて**い**ます。

⑥　わたしは，とうきょうのいたばしにげしゅくして**い**ます。

⑰　おおやまさんや，とりいさんは，きて**い**ますか。

⑱　いいえ，きて**い**ませんよ。

㉓　しょうせつをよんで**い**ました。

㉖　ええ，ともだちにてがみをかいて**い**ました。

㉗　まだ，あめがふって**い**ますね。

㉞　とりいさんは，いま，なにをして**い**ますか。

㊱　さっきまでギターをひいて**い**ましたよ。

㊷　まつざわさんは，いま，たばこをかいにいって**い**ます。

㊶　みんな，そろって**い**ますね。

㊷　あめは，まだふって**い**ますか。

㊸　ええ，だいぶふって**い**ますよ。

(3)㉒　なにをして**いた**んですか。

㉕　いとうさんは，てがみをかいて**いた**んですね。

いい（2）

㊳　それは，**いい**ですね。

㊵　それは，**いい**。

いいえ（1）

⑱　**いいえ**，きていませんよ。

いく〔行く〕（4）

(1)⑬　せんしゅうのにちようび，このさんにんのともだちと，あさくさへ**い**

きました。

(2)⑭　まず，おてらへ**いって**，それから，まちをあるいて，かいものをしました。

(3)㉙　ちょっと，たばこやへ**いって**きます。

(4)㊷　まつざわさんは，いま，たばこをかいに**いって**います。

いけぶくろ〔池袋〕（1）

⑨　そして，**いけぶくろ**えきで，でんしゃをおります。

いたばし〔板橋〕（2）

⑥　わたしは，とうきょうの**いたばし**にげしゅくしています。

⑧　はちじにげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，**いたばし**えきで，でんしゃにのります。

いつも（1）

⑦　あさは，**いつも**，しちじにおきて，かんたんなちょうしょくをとります。

いとう〔伊藤〕（2）

㉕　**いとう**さんは，てがみをかいていたんですね。

㉚　**いとう**さん，あさくさのしゃしんができましたよ。

いま〔今〕（3）

⑤　わたしは，**いま**，じぶんのへやでてがみをかいています。

㉞　とりいさんは，**いま**，なにをしていますか。

㊷　まつざわさんは，**いま**，たばこをかいにいっています。

いれる（1）

㊲　コーヒーでも，**いれ**ましょうか。

ええ（4）

㉖　**ええ**，ともだちにてがみをかいていました。

㉘㊼　**ええ**。

㊸　**ええ**，だいぶふっていますよ。

えき〔駅〕（3）

(1)⑧　はちじにげしゅくをでて，**えき**までごぶん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

(2)⑧　はちじにげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばし**えき**で，でんしゃにのります。

⑨　そして，いけぶくろ**えき**で，でんしゃをおります。

お（1）

⑭　まず，**お**てらへいって，それから，まちをあるいて，かいものをしました。

おおやま〔大山〕（1）

⑰　**おおやま**さんや，とりいさんは，きていますか。

おきる〔起きる〕（1）

⑦　あさは，いつも，しちじに**おきて**，かんたんなちょうしょくをとります。

おねがいします〔お願いします〕（1）

㊻　**おねがいします。**

おもしろい（2）

(1)㉔　**おもしろい**んですが，ちょっと，つかれました。

(2)㉜　このしゃしんは，**おもしろい**ですね。

おりる〔降りる〕（1）

⑨　そして，いけぶくろえきで，でんしゃを**おり**ます。

おわる〔終わる〕（1）

⑩　がっこうは，くじにはじまって，よじごろ**おわり**ます。

か（8）

(1)⑰　おおやまさんや，とりいさんは，きていますか。

㉒　なにをしていたんですか。

㉞　とりいさんは，いま，なにをしていますか。

㊷　あめは，まだふっていますか。

(2)㊲　コーヒーでも，いれましょうか。

(3)⑳　あっ，そうです**か**。

㉛　ああ，あさくさのしゃしんです**か**。

㊹　ああ，そうです**か**。

が（7）

(1)①　きょうは，あめ**が**ふっています。

③　このは**が**あめにぬれて，ゆれています。

④　にわには，きくのはな**が**さいています。

⑫　げしゅくには，ともだち**が**さんにん，います。

㉗　まだ，あめ**が**ふっていますね。

㉚　いとうさん，あさくさのしゃしん**が**できましたよ。

(2)㉔　おもしろいんです**が**，ちょっと，つかれました。

かう〔買う〕（1）

㊷　まつざわさんは，いま，たばこを**かい**にいっています。

かく〔書く〕（3）

⑤　わたしは，いま，じぶんのへやでてがみを**かいて**います。

㉖　ええ，ともだちにてがみを**かいて**いました。

㉕　いとうさんは，てがみを**かいて**いたんですね。

かいもの〔買い物〕（1）

⑭　まず，おてらへいって，それから，まちをあるいて，**かいもの**をしました。

かえる〔帰る〕（1）

㊸　すぐ，**かえって**きますよ。

かえり〔帰り〕（1）

⑮　**かえり**に，みんなで，やきとりをたべて，ビールをのみました。

かぜ〔風〕（1）

②　**かぜ**も，すこし，ふいています。

がっこう〔学校〕（1）

⑩　**がっこう**は，くじにはじまって，よじごろおわります。

かんたんな〔簡単な〕(1)

⑦ あさは，いつも，しちじにおきて，**かんたんな**ちょうしょくをとります。

くる〔来る〕(5)

(1)⑰ おおやまさんや，とりいさんは，**き**ていますか。

⑱ いいえ，**き**ていませんよ。

(2)㉙ ちょっと，たばこやへいって**き**ます。

㊸ すぐ，かえって**き**ますよ。

㊺ じゃあ，とりいさんをよんで**き**ます。

きく〔菊〕(1)

④ にわには，**きく**のはながさいています。

ギター(1)

㊱ さっきまで**ギター**をひいていましたよ。

きょう〔今日〕(1)

① **きょう**は，あめがふっています。

く〔九〕(1)

⑩ がっこうは，**く**じにはじまって，よじごろおわります。

げしゅく〔下宿〕(3)

(1)⑧ はちじに**げしゅく**をでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

⑫ **げしゅく**には，ともだちがさんにん，います。

(2)⑥ わたしは，とうきょうのいたばしに**げしゅく**しています。

ご〔五〕(1)

⑧ はちじにげしゅくをでて，えきまで**ご**ふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

この(2)

⑬ せんしゅうのにちようび，**この**さんにんのともだちと，あさくさへいきました。

㉜ **この**しゃしんは，おもしろいですね。

このは〔木の葉〕（1）

③ **このは**があめにぬれて，ゆれています。

ごろ（3）

⑩ がっこうは，くじにはじまって，よじ**ごろ**おわります。

⑪ よるは，しちじ**ごろ**しょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじ**ごろ**までべんきょうして，ねます。

コーヒー（1）

㊲ **コーヒー**でも，いれましょうか。

さあ（1）

㉟ **さあ**……。

さく〔咲く〕（1）

④ にわには，きくのはなが**さいて**います。

さっき（1）

㊱ さっきまでギターをひいていましたよ。

さん〔三〕（2）

⑫ げしゅくには，ともだちが**さん**にん，います。

⑬ せんしゅうのにちようび，この**さん**にんのともだちと，あさくさへいきました。

さん（9）

⑰ おおやま**さん**や，とりいさんは，きていますか。

⑰ おおやまさんや，とりい**さん**は，きていますか。

㉕ いとう**さん**は，てがみをかいていたんですね。

㉚ いとう**さん**，あさくさのしゃしんができましたよ。

㉞ とりい**さん**は，いま，なにをしていますか。

㊴ とりい**さん**も，よびましょう。

㊶ まつざわ**さん**は？

㊷ まつざわ**さん**は，いま，たばこをかいにいっています。

㊺ じゃあ，とりい**さん**をよんできます。

する（6）

(1)⑭ まず，おてらへいって，それから，まちをあるいて，かいものを**し**ました。

(2)⑪ よるは，しちじごろしょくじを**して**，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょう**して**，ねます。

(3)㉞ とりいさんは，いま，なにを**して**いますか。

㉒ なにを**して**いたんですか。

(4)⑥ わたしは，とうきょうのいたばしにげしゅく**して**います。

じ〔時〕（6）

⑦ あさは，いつも，しち**じ**におきて，かんたんなちょうしょくをとります。

⑧ はち**じ**にげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

⑩ がっこうは，く**じ**にはじまって，よじごろおわります。

⑩ がっこうは，くじにはじまって，よ**じ**ごろおわります。

⑪ よるは，しち**じ**ごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういち**じ**ごろまでべんきょうして，ねます。

しち〔七〕（2）

⑦ あさは，いつも，**しち**じにおきて，かんたんなちょうしょくをとります。

⑪ よるは，**しち**じごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それか

ら，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

じぶん〔自分〕（2）

⑤ わたしは，いま，**じぶん**のへやでてがみをかいています。

⑲ ふたりとも，**じぶん**のへやでしょう。

じゃあ（1）

㊺ **じゃあ**，とりいさんをよんできます。

しゃしん〔写真〕（4）

㉚ いとうさん，あさくさの**しゃしん**ができましたよ。

㉛ ああ，あさくさの**しゃしん**ですか。

㉜ この**しゃしん**は，おもしろいですね。

㊿ あ、あさくさの**しゃしん**ですね。

じゅういち〔十一〕（1）

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，**じゅういち**じごろまでべんきょうして，ねます。

しょうせつ〔小説〕（1）

㉓ **しょうせつ**をよんでいました。

しょくじ〔食事〕（1）

⑪ よるは，しちじごろ**しょくじ**をして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

すぐ（1）

㊸ **すぐ**，かえってきますよ。

すこし〔少し〕（2）

② かぜも，**すこし**，ふいています。

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，**すこし**，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

せんしゅう〔先週〕（1）

⑬ **せんしゅう**のにちようび，このさんにんのともだちと，あさくさへいきました。

そう（3）

⑳ あっ，**そう**ですか。

㉝ **そう**ですね。

㊹ ああ，**そう**ですか。

そして（1）

⑨ **そして**，いけぶくろえきで，でんしゃをおります。

それ（2）

㊳ **それ**は，いいですね。

㊵ **それ**は，いい。

それから（2）

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，**それから**，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

⑭ まず，おてらへいって，**それから**，まちをあるいて，かいものをしました。

そろう（1）

㊶ みんな，**そろって**いますね。

だいぶ（1）

㊸ ええ，**だいぶ**ふっていますよ。

たばこ（2）

㉙ ちょっと，**たばこ**やへいってきます。

㊷ まつざわさんは，いま，**たばこ**をかいにいっています。

たべる〔食べる〕（1）

⑮ かえりに，みんなで，やきとりを**たべて**，ビールをのみました。

ちょうしょく〔朝食〕（1）

⑦ あさは，いつも，しちじにおきて，かんたんな**ちょうしょく**をとります。

ちょっと（2）

㉔ おもしろいんですが，**ちょっと**，つかれました。

㉙ **ちょっと**，たばこやへいってきます。

つかれる〔疲れる〕（1）

㉔ おもしろいんですが，ちょっと，**つかれ**ました。

で（4）

(1)⑤ わたしは，いま，じぶんのへや**で**てがみをかいています。

⑧ はちじにげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえき**で**，でんしゃにのります。

⑨ そして，いけぶくろえき**で**，でんしゃをおります。

(2)⑮ かえりに，みんな**で**，やきとりをたべて，ビールをのみました。

てがみ〔手紙〕（3）

⑤ わたしは，いま，じぶんのへやで**てがみ**をかいています。

㉕ いとうさんは，**てがみ**をかいていたんですね。

㉖ ええ，ともだちに**てがみ**をかいていました。

できる（1）

㉚ いとうさん，あさくさのしゃしんが**でき**ましたよ。

でしょう（1）

⑲ ふたりとも，じぶんのへや**でしょう**。

です（10）

(1)㉜ このしゃしんは，おもしろい**です**ね。

㉝ そう**です**ね。

㊳ それは，いい**です**ね。

㊿ あ，あさくさのしゃしん**です**ね。

(2)⑳ あっ，そう**です**か。

㉛ ああ，あさくさのしゃしん**です**か。

㊹ ああ，そう**です**か。

(3)㉒ なにをしていたん**です**か。

㉔ おもしろいん**です**が，ちょっと，つかれました。

㉕ いとうさんは，でがみをかいていたん**です**ね。

でる〔出る〕（1）

⑧ はちじにげしゅくを**でて**，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

でも（1）

㊲ コーヒー**でも**，いれましょうか。

てら〔寺〕（1）

⑭ まず，お**てら**へいって，それから，まちをあるいて，かいものをしました。

テレビ（1）

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，**テレビ**をみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

でんしゃ〔電車〕（2）

⑧ はちじにげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，**でんしゃ**にのります。

⑨ そして，いけぶくろえきで，**でんしゃ**をおります。

と（1）

⑬ せんしゅうのにちようび，このさんにんのともだち**と**，あさくさへいきました。

とうきょう〔東京〕（1）

⑥ わたしは，**とうきょう**のいたばしにげしゅくしています。

どうぞ（1）

⑯ **どうぞ**。

どうも（1）

㊽ やあ，**どうも**。

とも（1）

⑲ ふたり**とも**，じぶんのへやでしょう。

ともだち〔友達〕（3）

⑫ げしゅくには，**ともだち**がさんにん，います。

⑬ せんしゅうのにちようび，このさんにんの**ともだち**と，あさくさへいきました。

㉖ ええ，**ともだち**にてがみをかいていました。

とる（1）

⑦ あさは，いつも，しちじにおきて，かんたんなちょうしょくを**とり**ます。

とりい〔鳥井〕（4）

⑰ おおやまさんや，**とりい**さんは，きていますか。

㉞ **とりい**さんは，いま，なにをしていますか。

㊴ **とりい**さんも，よびましょう。

㊺ じゃあ，**とりい**さんをよんできます。

なに〔何〕（2）

㉒ **なに**をしていたんですか。

㉞ とりいさんは，いま，**なに**をしていますか。

に（11）

(1)④ にわ**に**は，きくのはながさいています。

⑥ わたしは，とうきょうのいたばし**に**げしゅくしています。

⑫ げしゅく**に**は，ともだちがさんにん，います。

(2)⑦ あさは，いつもしちじ**に**おきて，かんたんなちょうしょくをとります。

⑧ はちじ**に**げしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

⑩ がっこうは，くじ**に**はじまって，よじごろおわります。

(3)⑧ はちじにげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃ**に**のります。

(4)㉖ ええ，ともだち**に**てがみをかいていました。

(5)㊷ まつざわさんは，いま，たばこをかい**に**いっています。

(6)⑮ かえり**に**，みんなで，やきとりをたべて，ビールをのみました。

(7)③ このはがあめ**に**ぬれて，ゆれています。

にちようび〔日曜日〕（1）

⑬ せんしゅうの**にちようび**，このさんにんのともだちと，あさくさへいきました。

にわ〔庭〕（1）

④ **にわ**には，きくのはながさいています。

にん〔人〕（2）

⑫ げしゅくには，ともだちがさん**にん**，います。

⑬ せんしゅうのにちようび，このさん**にん**のともだちとあさくさへいきました。

ぬれる（1）

③ このはがあめに**ぬれて**，ゆれています。

ねる〔寝る〕（1）

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，**ね**ます。

ね（7）

㉕ いとうさんは，てがみをかいていたんです**ね**。

㉗ まだ，あめがふっています**ね**。

㉜ このしゃしんは，おもしろいです**ね**。

㉝ そうです**ね**。

㊳ それは，いいです**ね**。

㊿ あ，あさくさのしゃしんです**ね**。

(51) みんな，そろっています**ね**。

の（9）

④ にわには，きく**の**はながさいています。

⑤ わたしは，いま，じぶん**の**へやでてがみをかいています。

⑥ わたしは，とうきょう**の**いたばしにげしゅくしています。

⑬ せんしゅう**の**にちようび，このさんにんのともだちと，あさくさへいきました。

⑬ せんしゅうのにちようび，このさんにん**の**ともだちと，あさくさへい

きました。

⑲ ふたりとも，じぶん**の**へやでしょう。

㉚ いとうさん，あさくさ**の**しゃしんができましたよ。

㉛ ああ，あさくさ**の**しゃしんですか。

㊿ あ，あさくさ**の**しゃしんですね。

のむ〔飲む〕（1）

⑮ かえりに，みんなで，やきとりをたべて，ビールを**のみ**ました。

のる〔乗る〕（1）

⑧ はちじにげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃに**のり**ます。

は（17）

① きょう**は**，あめがふっています。

④ にわに**は**，きくのはながさいています。

⑤ わたし**は**，いま，じぶんのへやでてがみをかいています。

⑥ わたし**は**，とうきょうのいたばしにげしゅくしています。

⑦ あさ**は**，いつも，しちじにおきて，かんたんなちょうしょくをとります。

⑩ がっこう**は**，くじにはじまって，よじごろおわります。

⑪ よる**は**，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

⑫ げしゅくに**は**，ともだちがさんにん，います。

⑰ おおやまさんや，とりいさん**は**，きていますか。

㉕ いとうさん**は**，てがみをかいていたんですね。

㉜ このしゃしん**は**，おもしろいですね。

㉞ とりいさん**は**，いま，なにをしていますか。

㊳ それ**は**，いいですね。

㊵ それ**は**，いい。

㊶ まつざわさん**は**？

㊷ まつざわさん**は**，いま，たばこをかいにいっています。

㊷ あめ**は**，まだふっていますか。

はじまる〔始まる〕（1）

⑩ がっこうはくじに**はじまって**，よじごろおわります。

はち〔八〕（1）

⑧ **はち**じにげしゅくをでて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

はな〔花〕（1）

④ にわには，きくの**はな**がさいています。

ひく（1）

㊱ さっきまでギターを**ひいて**いましたよ。

ビール（1）

⑮ かえりに，みんなで，やきとりをたべて，**ビール**をのみました。

ふく〔吹く〕（1）

② かぜも，すこし，**ふいて**います。

ふたり〔二人〕（1）

⑲ **ふたり**とも，じぶんのへやでしょう。

ふる〔降る〕（4）

① きょうは，あめが**ふって**います。

㉗ まだ，あめが**ふって**いますね。

㊷ あめは，まだ**ふって**いますか。

㊸ ええ，だいぶ**ふって**いますよ。

ふん〔分〕（1）

⑧ はちじにげしゅくをでて，えきまでご**ふん**，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

へ（3）

⑬ せんしゅうのにちようび，このさんにんのともだちと，あさくさ**へ**いきました。

⑭ まず，おてら**へ**いって，それから，まちをあるいて，かいものをしました。

㉙ ちょっと，たばこや**へ**いってきます。

へや〔部屋〕（2）

⑤ わたしは，いま，じぶんの**へや**でてがみをかいています。

⑲ ふたりとも，じぶんの**へや**でしょう。

べんきょう〔勉強〕（1）

⑪ よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまで**べんきょう**して，ねます。

ました（8） ⑬，⑭，⑮，㉓，㉔，㉖，㉚，㊱

ましょう（2）

㊲ コーヒーでも，いれ**ましょう**か。

㊴ とりいさんも，よび**ましょう**。

ます（22） ①，②，③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑨，⑩，⑪，⑫，⑰，㉙，㉞，㊷，㊸，㊺，㊶，㊷，㊸

まず（1）

⑭ **まず**，おてらへいって，それから，まちをあるいて，かいものをしました。

ません（1） ⑱

まだ（2）

㉗ **まだ**，あめがふっていますね。

㊷ あめは，**まだ**ふっていますか。

まち〔町〕（1）

⑭ まず，おてらへいって，それから，**まち**をあるいて，かいものをしました。

まつざわ〔松沢〕（2）

㊶ **まつざわ**さんは？

㊷ **まつざわ**さんは，いま，たばこをかいにいっています。

まで（3）

⑧　はちじにげしゅくをでて，えき**まで**ごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

⑪　よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろ**まで**べんきょうして，ねます。

㊱　さっき**まで**ギターをひいていましたよ。

みる〔見る〕（1）

⑪　よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビを**みて**，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

みんな（2）

⑮　かえりに，**みんな**で，やきとりをたべて，ビールをのみました。

㊺　**みんな**そろっていますね。

も（2）

②　かぜ**も**，すこし，ふいています。

㊴　とりいさん**も**よびましょう。

や〔屋〕（1）

㉙　ちょっと，たばこ**や**へいってきます。

や（1）

⑰　おおやまさん**や**，とりいさんは，きていますか。

やあ（2）

㊽　**やあ**，どうも。

㊾　**やあ**。

やきとり（1）

⑮　かえりに，みんなで，**やきとり**をたべて，ビールをのみました。

ゆれる（1）

③　このはがあめにぬれて，**ゆれて**います。

よ〔四〕（1）

⑩　がっこうは，くじにはじまって，**よ**じごろおわります。

よ（5）

⑱　いいえ，きていません**よ**。

㉚　いとうさん，あさくさのしゃしんができました**よ**。

㊱　さっきまでギターをひいていました**よ**。

㊸　すぐ，かえってきます**よ**。

㊸　ええ，だいぶふっています**よ**。

よぶ〔呼ぶ〕（2）

㊴　とりいさんも，**よび**ましょう。

㊺　じゃあ，とりいさんを**よんで**きます。

よる〔夜〕（1）

⑪　**よる**は，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

よむ〔読む〕（1）

㉓　しょうせつを**よんで**いました。

わたし〔私〕（2）

⑤　**わたし**は，いま，じぶんのへやでてがみをかいています。

⑥　**わたし**は，とうきょうのいたばしにげしゅくしています。

を（18）

(1)⑤　わたしは，いま，じぶんのへやでてがみ**を**かいています。

⑦　あさは，いつも，しちじにおきて，かんたんなちょうしょく**を**とります。

⑪　よるは，しちじごろしょくじ**を**して，すこし，テレビをみて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

⑪　よるは，しちじごろしょくじをして，すこし，テレビ**を**みて，それから，じゅういちじごろまでべんきょうして，ねます。

⑭　まず，おてらへいって，それから，まちをあるいて，かいもの**を**しました。

⑮　かえりに，みんなで，やきとり**を**たべて，ビールをのみました。

⑮ かえりに，みんなで，やきとりをたべて，ビール**を**のみました。

㉒ なに**を**していたんですか。

㉓ しょうせつ**を**よんでいました。

㉕ いとうさんは，てがみ**を**かいていたんですね。

㉖ ええ，ともだちにてがみ**を**かいていました。

㉞ とりいさんは，いま，なに**を**していますか。

㊱ さっきまでギター**を**ひいていましたよ。

㊷ まつざわさんは，いま，たばこ**を**かいにいっています。

㊺ じゃあ，とりいさん**を**よんできます。

(2)⑧ はちじにげしゅく**を**でて，えきまでごふん，あるいて，いたばしえきで，でんしゃにのります。

⑨ そして，いけぶくろえきで，でんしゃ**を**おります。

(3)⑭ まず，おてらへいって，それから，まち**を**あるいて，かいものをしました。

ん（3）

㉒ なにをしていた**ん**ですか。

㉔ おもしろい**ん**ですが，ちょっと，つかれました。

㉕ いとうさんは，てがみをかいていた**ん**ですね。

資料2. シナリオ全文

題　　名　日本語教育映画
「きょうは あめが ふっています」
——して，している，していた-

企　　画　国立国語研究所

制　　作　日本シネセル株式会社

フイルム　16mmＥＫカラー・スタンダード

巻　　数　全１巻

上映時間　５分

現 像 所　東映化学

録　　音　読売スタジオ

完　　成　昭和53年１月31日

制作スタッフ

制　　作	静　永　純　一
制作担当	佐　藤　吉　彦
脚　　本	前　田　直　明
演　　出	前　田　直　明
演出助手	林　　洋　一
撮　　影	八　柳　勇　三
撮影助手	松　屋　研　一
照　　明	伴　野　　功
音　　楽	吉　田　征　雄
録　　音	小　川　正　城（読売スタジオ）
ネガ編集	亀　井　　正

配　　役　伊　藤　　越　谷　文　博
松　沢　　松　沢　重　雄
大　山　　大　山　康　夫
鳥　井　　鳥　居　秀　光

カット	画　　面	セ　リ　フ
1	メイン・タイトル 日本語教育映画	
2	テーマ・タイトル きょうは　あめが　ふって います ——して，している，し ていた——	
3	窓の外から伊藤	①きょうは，あめがふってい ます。 ②かぜも，すこし，ふいてい ます。
4	風にゆれる小枝	③このはがあめにぬれて，ゆ れています。
5	菊の花	④にわには，きくのはながさ いています。
6	手紙を書く伊藤	⑤わたしは，いま，じぶんの へやでてがみをかいています。
7	室内	⑥わたしは，とうきょうのい たばしにげしゅくしています。
8	手紙を書く伊藤	
9	スチール 時計	⑦あさは，いつも，しちじに
10	起きる	おきて，
11	食事　伊藤	かんたんなちょうしょくをと ります。
12	時計	⑧はちじに
13	玄関を出る伊藤	げしゅくをでて，
14	駅前	えきまで
15	時計	ごふん，
16	歩く伊藤	あるいて，
17	駅　看板	いたばしえきで，
18	電車に乗る	でんしゃにのります。
19	駅　看板	⑨そして，いけぶくろえきで，

20	電車から降りる	でんしゃをおります。
21	教室	⑩がっこうは,
22	時計	くじに
23	教室の伊藤	はじまって,
24	時計	よじごろ
25	教室を出る伊藤	おわります。
26	食卓の前	⑪よるは,
27	時計	しちじごろ
28	食事をする	しょくじをして,
29	テレビを見る	すこし, テレビをみて,
30	勉強する	それから,
31	時計	じゅういちじごろまで, べん
32	勉強終わる	きょうして,
33	寝る	ねます。
33	三人の友達	⑫げしゅくには, ともだちが
		さんにん, います。
35	四人浅草を歩く	⑬せんしゅうのにちようび,
		このさんにんのともだちと,
36	浅草	あさくさへいきました。
37	寺	⑭まず, おてらへいって,
38	店の前	それから, まちをあるいて,
39	買物をする	かいものをしました。
40	焼鳥屋	⑮かえりに, みんなで, やき
41	食べる	とりをたべて,
42	飲む	ビールをのみました。
43	同	
44	伊藤,手紙を書いている	
45	大山,テレビを見ている	
46	鳥井, ギターをひいている	
47	松沢, 本を読んでいる	
	(やがて, あくびをして部屋を出ていく)	
48	伊藤手紙を書いている。そこへ松沢入ってくる	伊藤「⑯どうぞ。」 松沢「⑰おおやまさんや, とりいさんは, きていま

		すか。」 伊藤「⑱いいえ，きていませんよ。 ⑲ふたりとも，じぶんのへやでしょう。」
49	伊藤と松沢 松沢のびをする	松沢「⑳あ，そうですか。 ㉑あーあ。」 伊藤「㉒なにをしていたんですか。」 松沢「㉓しょうせつをよんでいました。 ㉔おもしろいんですが，ちょっと，つかれました。
50	手紙	㉕いとうさんは，てがみをかいていたんですね。」
51	伊藤	伊藤「㉖ええ，ともだちにてがみをかいていました。
52	窓の外は雨が降っている	松沢「㉗まだ，あめがふっていますね。」 伊藤「㉘ええ。」
53	伊藤，松沢 松沢部屋を出ていく	松沢「㉙ちょっと，たばこやへいってきます。」
54	傘をさして出ていく松沢	
55	伊藤手紙を書いている。そこへ大山が入ってくる	大山「㉚いとうさん，あさくさのしゃしんができましたよ。」 伊藤「㉛ああ，あさくさのしゃしんですか。」 （写真を見る）
56	写真	伊藤「（笑い声になりながら） ㉜このしゃしんは，おもしろいですね。」

57	伊藤，大山	大山「(笑ってから)㉝そうですね。」
58	雨	
59	伊藤，大山	伊藤「㉞とりいさんは，いま，なにをしていますか。」 大山「㉟さあ……。」 ㊱さっきまでギターをひいていましたよ。」
	（伊藤，立ち上がり）	伊藤「㊲コーヒーでも，いれましょうか。」 大山「㊳それは，いいですね。」 （大山，写真を見ながら笑う）
60	食卓を出す伊藤	伊藤「㊴とりいさんも，よびましょう。」
61	写真（松沢）	大山「㊵それは，いい。」 「㊶まつざわさんは？」
62	伊藤	伊藤「㊷まつざわさんは，いま，たばこをかいにいっています。」 「㊸すぐ，かえってきますよ。」
63	大山	大山「㊹ああ，そうですか。」 「㊺じゃあ，とりいさんをよんできます。」 伊藤「㊻おねがいします。」
	（大山）	大山「㊼ええ。」
64	ドアを開けて入ってくる鳥井，大山　二人とも坐る	鳥井「㊽やあ，どうも。」 伊藤「㊾やあ。」 鳥井「㊿あ，あさくさのしゃしんですね。」 （写真を見ながら笑う）
65	松沢も入ってくる	松沢「(51)みんな，そろっていますね。」
66	松沢，大山	大山「(52)あめは，まだふって

		いますか。」 松沢「㊸ええ，だいぶふっていますよ。」
67 68	雨 企画・制作タイトル 企画　国立国語研究所 制作　日本シネセル株式会社	

昭和55年３月

国 立 国 語 研 究 所

〒115 東京都北区西が丘３－９－14
電話東京（900）3111(代表)

印刷所　城北高速印刷協業組合
電話（966）8101